

だれでもできる 快測ナビ

目 次

□ 快測ナビを操作する前に

01 快測ナビを利用する状態にする	1
02 現場を作成する	4
03 快測ナビと器械を接続する	8

□ 器械設置をする

04 既知点に器械を設置する	13
05 任意点に器械を設置する	16
06 任意(ローカル)座標で器械を設置する	19

□ 測設する

07 座標測設をする	22
08 路線データを利用し、測設する	26
09 CADデータを利用し、測設する	29
10 ラインを分割した点を測設する	32
11 ラインを基準にオフセットした点を測設する	36
12 Adv版 構造物モデルを利用し、測設する	39

□ 観測する

13 座標値を観測する	43
14 路線の横断方向に誘導しながら 現況横断を観測する	45
15 設定したラインとの離れを観測する	48
16 Adv版 設定したラインとの左右離れ、 標高離れを観測する	50
17 レベル観測をする	53
18 Adv版 TS 出来形計測・検査をする	54
19 Adv版 どこでも出来形を使用する	56
20 Adv版 TS ローバー観測をする	58
21 Adv版 ノンプリスキャンをする	60
22 Adv版 TS ローバー検査をする	63
23 Adv版 グリッド観測をする	66

□ リアルタイムナビゲーション

24 どこでもナビを使用する	69
25 どこでも構造物を使用する	71
26 どこでも床掘を使用する	73
27 どこでも法面を使用する	76
28 Adv版 どこでも Surface を使用する	78
29 Adv版 どこでもスライスを使用する	80
30 Adv版 どこでも丁張を使用する	83
31 Adv版 快測モニターを使用する	91

□ プランニングナビ【P-Surface】

32 Adv版 座標点を観測する	93
33 Adv版 Surface（面データ）を作成・編集する	95
34 Adv版 Surface ガイダンスを使用する	98
35 Adv版 標高ガイドを使用する	100

□ プランニングナビ【P-Line】

36 Adv版 Line（基準線データ）を作成・編集する	102
-------------------------------------	-----

□ データ管理

37 設計データを確認する	106
---------------	-----

□ データ出力

38 記録したデータを出力する	107
39 現場データを出力する	109

□ その他の機能

40 点を選択する	110
41 マップの背景に CAD 図面を配置する	111
42 ツールバーの位置を切り替える	112
43 コントローラーの表示位置を変更する	113

□ 利用期間 / アップグレード

快測ナビの利用期間更新について	114
-----------------	-----

Lesson

01

快測ナビを利用する状態にする

アクティベーションコードを入力、クラウドサービス管理画面でメンバー登録し、快測ナビを利用できる状態にします。

設定の流れ

01 | 快測ナビのインストール

Google Play ストアより
快測ナビをインストールします。

02 | アクティベーションコードを
入力

快測ナビのアクティベーションコードを入力します。

03 | メンバー登録

快測ナビの使用者を、クラウドサービス管理画面に
登録します。

既に登録済みの方は、使用者認証を行います。

04 | 個人情報
登録

05 | 認証
確認

招待メールからクラウドサービス管理画面を起動
し、個人情報を登録します。

個人情報の登録後、認証確認を行います。

06 | 準備完了

快測ナビを使用できるようになり、ライセンスに使
用期限が表示されます。

詳しい操作方法についてのご案内

このマニュアルでは、基本的な操作の流れを説明しています。

クラウドサービス管理画面の詳しい操作については、

「クラウドサービス管理画面 基本操作マニュアル」または「ヘルプ」を
ご覧ください。

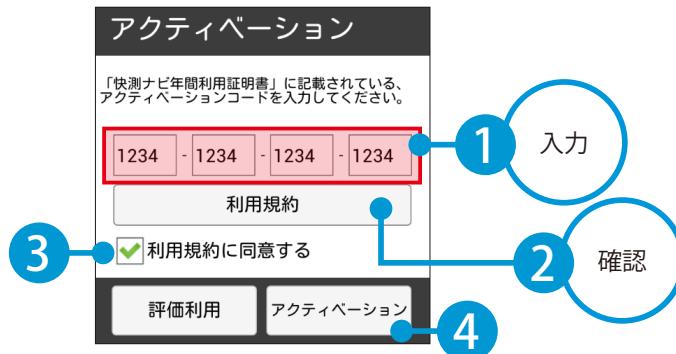


01 | 快測ナビをインストールします。

- 1 Google Play ストアより快測ナビをインストールします。

02 | アクティベーションコードを入力します。

- 1 快測ナビを起動し、ご注文時に送信させていただいたメールに記載されているアクティベーションコードを入力します。



アクティベーションコードの確認方法について

クラウドサービス管理画面の「契約情報」をクリックし、「快測ナビ」の「アクティベーションコード」欄の^(c)をクリックして確認できます。

クラウドサービス管理画面					
ホーム	快測ナビ	契約期間	状態	エディション	アクティベーションコード
K0001	20XX/XX/XX - 20XX/X...	契約中	スタンダ...	*****-*****-*****-***** ^(c)	端末名
K0002	20XX/XX/XX - 20XX/X...	契約中	スタンダ...	*****-*****-*****-***** ^(c)	

03 | メンバー登録をします。

- 1 快測ナビの使用者をクラウドサービス管理画面に登録します。
使用者のメールアドレスを入力します。

既に
クラウドサービス
管理画面に
メンバー登録済み
の方は、こちらを
選択します。

05へ
お進み
ください。

メールアドレス登録

クラウドサービスにメンバーを登録します。
登録するメンバーのメールアドレスを入力してください。

既に登録済みの方は[こちら](#)

本メールアドレスには快測ナビの更新情報など重要な情報が送付されます。
常にご確認いただけるアドレスをご利用ください。

メールアドレス

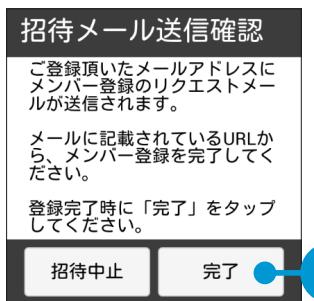
1 入力

2 OK

キャンセル OK

04 | 個人情報を登録します。

- 招待者にメールが届きます。
招待メールの URL をクリックし、クラウドサービス管理画面を起動します。
- 名前とパスワードを入力し、利用規約に同意します。



05 | 認証確認を行います。

- クラウドサービス管理画面にメンバー登録した使用者でログインします。
すでに使用者名とメールアドレスが表示されている場合は、使用者とメールアドレスを確認し、[OK] をタップします。
別のアカウントに変更したい場合は、[ログアウト] をクリックしてください。



06 | 準備が完了しました。

- 快測ナビを使用できる状態になりました。
画面下部にライセンスの利用期間が表示されます。
利用期間終了まで 30 日を切ると、メッセージが表示され、日付が赤字で表示されます。
利用期間更新の手順につきましては、P114 をご確認ください。

3



Lesson 02

現場を作成する

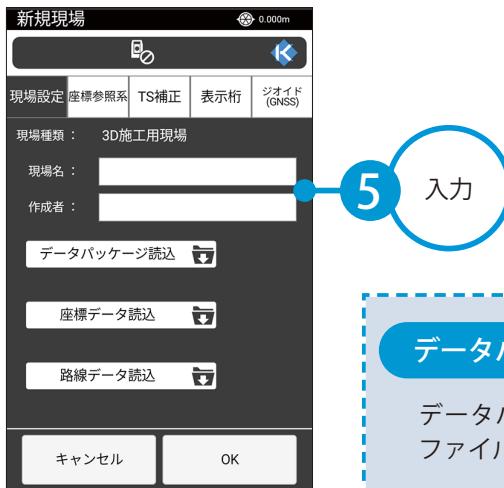
現場を作成し、路線データや座標データを取り込みます。

01 | 新規現場を作成します。

- 1 今回は、Adv 版で 3D 施工用現場を作成します。



- 2 現場名、作成者を入力します。



データパッケージまたは路線データを読み込んだ場合

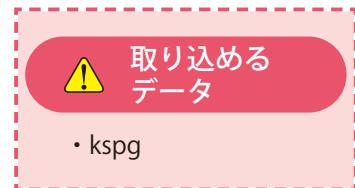
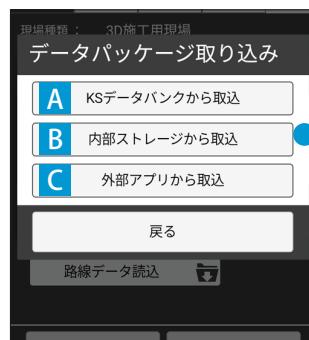
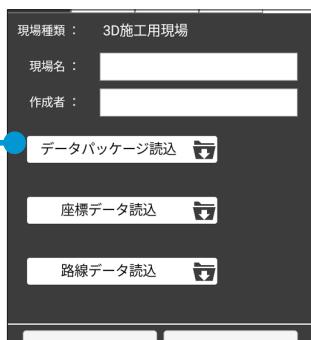
データパッケージまたは路線データを読み込んだ場合は、ファイル名が現場名として自動入力されます。

4

02 | データパッケージ、座標データ、路線データを取り込みます。

データパッケージ読込

1 [データパッケージ読込] をタップし、データパッケージを選択します。



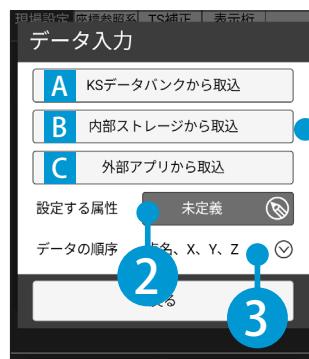
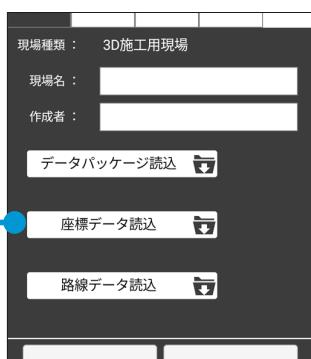
データパッケージについて

「SiTECH 3D」で出力されたパッケージ（路線データ、平面図、閲覧図面、座標データ、3D サーフェス）を一括で取り込みます。

※取り込んだ 3D サーフェスは「Adv 版」のみ活用できます。

座標データ読込

1 [座標データ読込] をタップし、「属性」「データの順序」を設定し、座標データを選択します。



路線データ読込

1 [路線データ読込] をタップし、路線データを選択します。



データの取り込み方法について

A KS データバンクから取込

KS データバンクの快測ナビ
フォルダーに格納したファイル
を取り込む場合に選択します。

B 内部ストレージから取込

モバイル端末内に保存している
データを取り込む場合に選択し
ます。

C 外部アプリから取込

各外部アプリに保存してある
データを取り込む場合に選択し
ます。

KS データバンクからデータを取り込む手順について

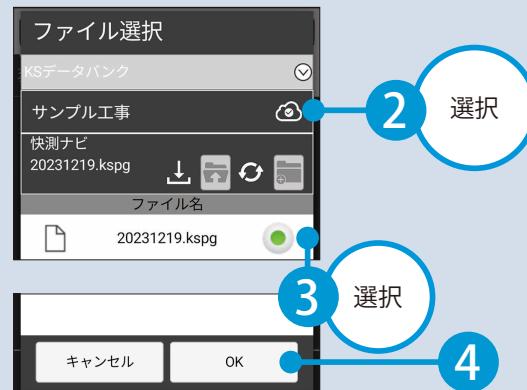
KS データバンクからデータを取り込む場合は、クラウドサービス管理画面にログインし、クラウド工事を選択してファイルを選択してください。

1 各取り込み画面にて、[KS データバンクから取り込み] をタップします。



2 クラウドサービス管理画面にログイン
します。ログイン方法につきましては、
P3 の「05 認証確認を行います」を
ご確認ください。

3 ファイルがアップロードされているクラウド
工事を選択し、ファイルを選択してください。



ご注意

使用する端末の OS が Android 11 以上の場合、内部ストレージにアクセスできません。KS データバンク、または外部アプリから取り込みを行ってください。

03 | 座標参照系、TS補正、表示桁、ジオイドを設定します。

1 [座標参照系] の設定をします。



2 [TS補正] の設定をします。



3 [表示桁] の設定をします。



4 [ジオイド] の設定をします。



平面直角座標系と測地系の設定について

GNSS アンテナによる測位や GNSS 追尾機能・TS 出来形管理機能を使用するには、平面直角座標系と測地系、ジオイドモデルの設定が必要です。

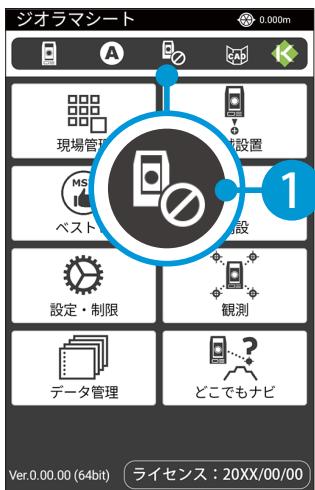
正しい平面直角座標系と測地系、ジオイドモデルを選択してください。

快測ナビと器械を接続する

快測ナビと使用する器械（測量機）を接続します。

01 | 通信設定をします。※ここでは「LN-150(Wi-Fi)」での接続方法について説明します。

1 ツールバーの【通信設定】をタップします。



2 メーカーや機種名を選択します。



※機種により「自動追尾」または「自動視準」のどちらを使用するか設定できます。

3 Wi-Fi の接続先を、設定したい器械に設定します。

【Wi-Fi 設定】をタップします。



接続できる機種について

弊社 HP でご確認ください。

Bluetooth での接続について

Bluetooth で接続する場合は、通信方法で [Bluetooth] を選択してください。



4 パスワードを入力します。「接続済み」になつたら端末の【戻る】をタップします。



※ 画面は、Android のバージョンにより異なります。

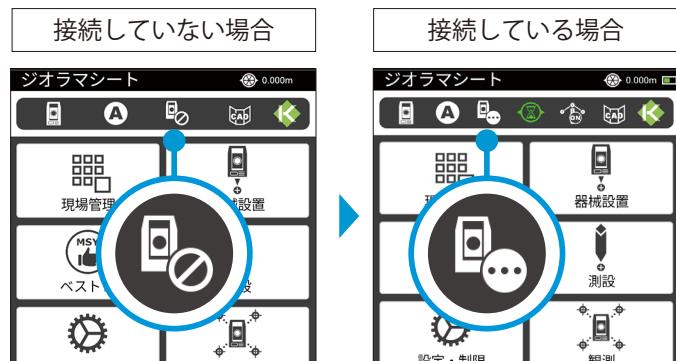
器械のパスワードについて

器械のパスワードについては、各器械の説明書でご確認ください。

5 設定後 【接続】をタップします。



6 接続すると、ツールバーのアイコンが変わります。



次回の接続について

次回からの接続は、「前回の接続機器」をタップすると、簡単に接続できます。

Wi-Fi接続設定

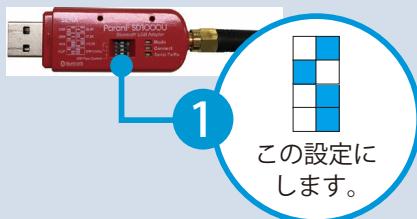
前回の接続機器：
LN-150...

現在の接続先：
LN-150...

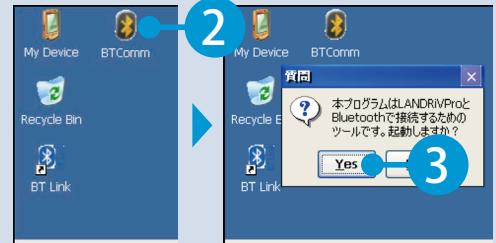
9

Nikon-Trimble 製 FOCUS35(Bluetooth) と接続する場合

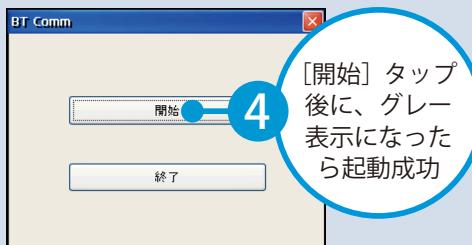
- 1** Bluetooth デバイスの通信速度が 38400bps に設定されているか確認します。



- 2** FOCUS35 の電源を入れ、[BT Comm] をダブルタップし、[Yes] をタップします。



- 3** [開始] をタップします。



- 4** 快測ナビのツールバーの [通信設定] をタップします。



※ FOCUS35 のバージョン等により画面が異なる可能性があります。詳細は FOCUS35 のマニュアル等でご確認ください。

- 5** メーカーや機種名を選択し、[接続] をタップします。



- 6** Bluetooth の接続先を選択します。



Nikon-Trimble 製 FOCUS50/S シリーズ (Bluetooth) と接続する場合

- 1 FOCUS50 の電源を入れ、10 カウントを待ち、接続待機状態にします。



- 2 快測ナビのツールバーの [通信設定] をタップします。



- 3 メーカーや機種名を選択し、[接続] をタップします。



- 4 Bluetooth の接続先を選択します。



Nikon-Trimble 製 FOCUS35/FOCUS50/S シリーズ（無線機）と接続する場合

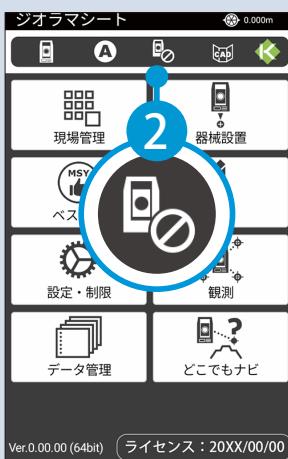
- 1 無線機と FOCUS35 の電源を入れ、無線機の【サーチ】ボタンを長押しします。



長押し※
点滅状態に
なります。

※【サーチ】ボタンの長押しは、
初回接続時のみ行います。

- 2 快測ナビのツールバーの【通信設定】をタップします。



- 3 メーカーや機種名を選択し、[無線機設定] をタップし、チャンネルと ID を入力して接続します。



※「チャンネル」「ID」は、FOCUS35 の反側画面参照

- 4 無線機の Bluetooth の接続先を選択します。



RB XXXX
を選択

- 5 無線機とのペアリングを行うので、[ペア設定する] をタップします。



ペア設定に
失敗してしまった場合、
あらかじめ Android の
設定アプリから、
Bluetooth の
ペアリングを事前に行い、
1～4 の手順をお試し
ください。

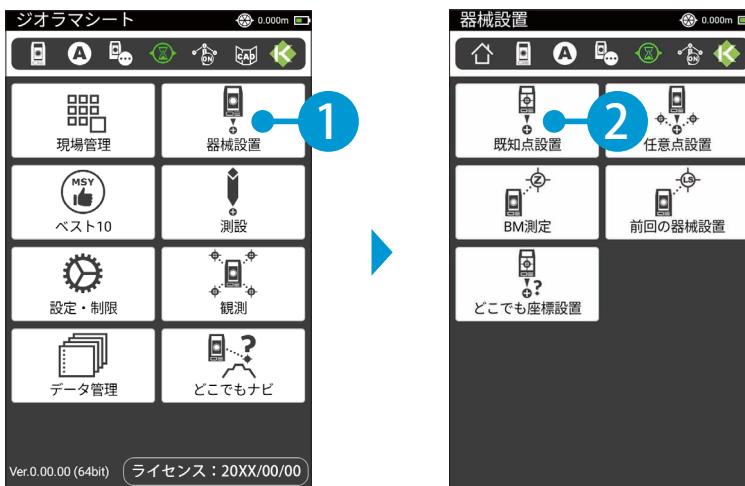
※初回接続時のみ、表示されます。

既知点に器械を設置する

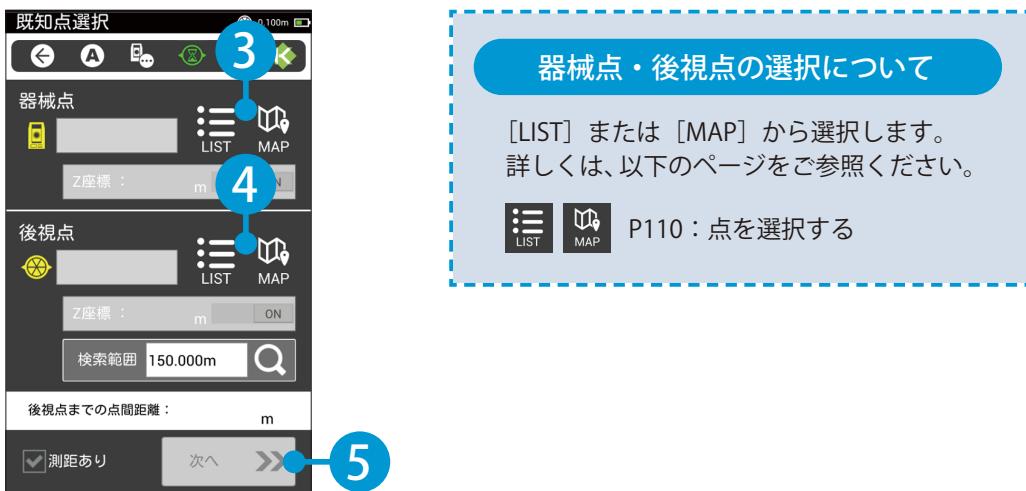
既知点上に器械を据えて後視点を測り、既知点設置を行います。

01 | 器械点、後視点を選択します。

- 1 [器械設置] → [既知点設置] をタップします。

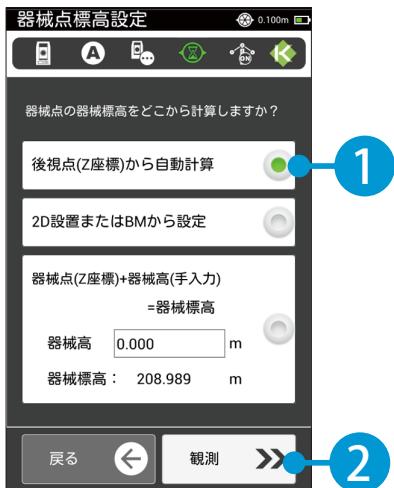


- 2 器械点、後視点を、[LIST] または [MAP] から選択します。



02 | 器械標高の計算方法を選択します。

- 1 器械標高をどこから計算するか選択し、
[観測] をタップします。



- 2 プリズム高を入力します。

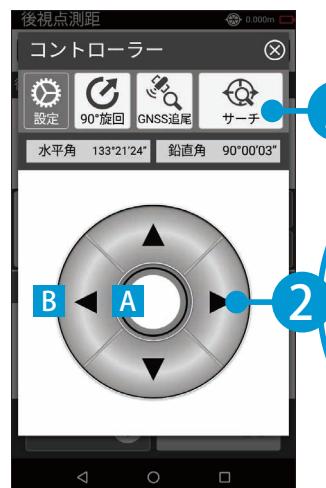


03 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

- 1 コントローラーを起動します。



- 2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観準して測定します。

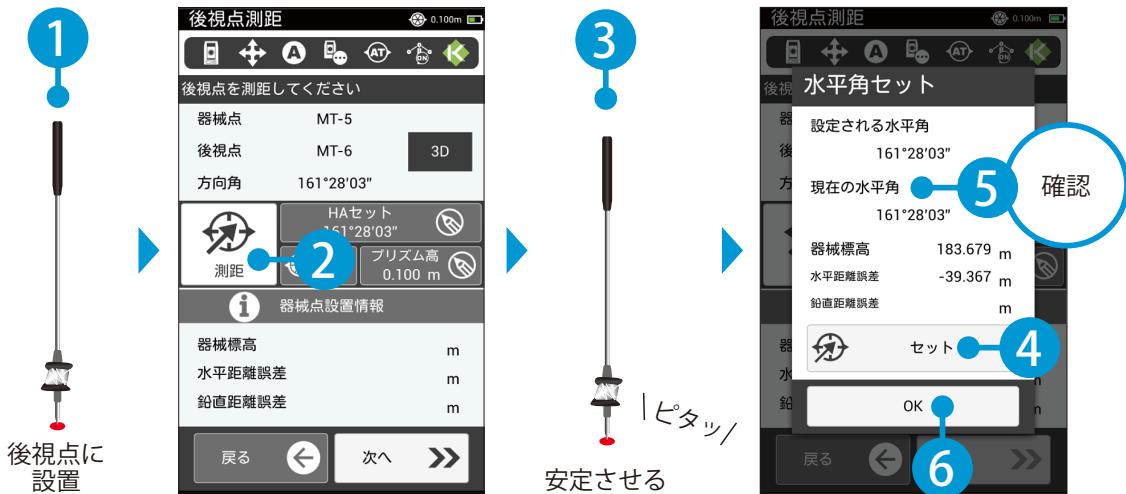
プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は右記のアイコンに変わります。

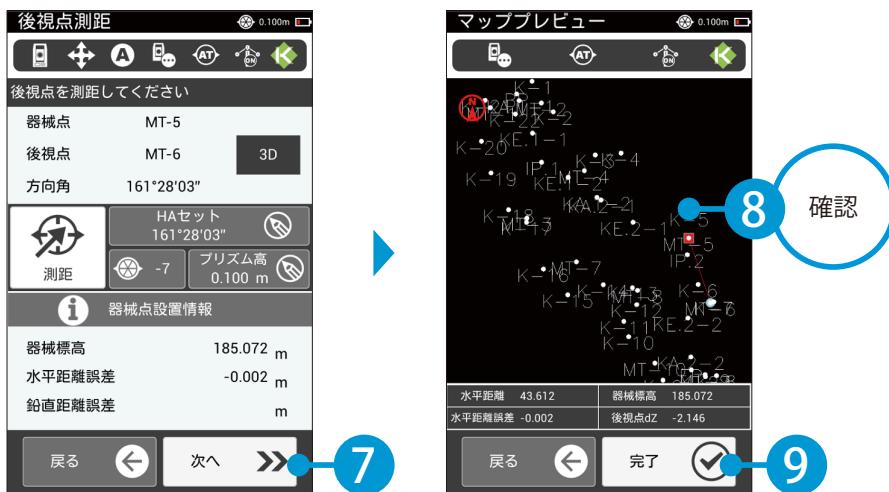


04 | 測距します。

- 1 後視点にプリズムを設置し、測距します。
プリズムを安定させ、「セット」をタップすると、器械に角度がセットされます。



- 2 [次へ] をタップし、器械設置の状況をマップで確認します。



マップの背景に CAD 図面を配置する場合

詳しくは、以下のページをご参照ください。
P111：マップの背景に CAD 図面を配置する

任意点に器械を設置する

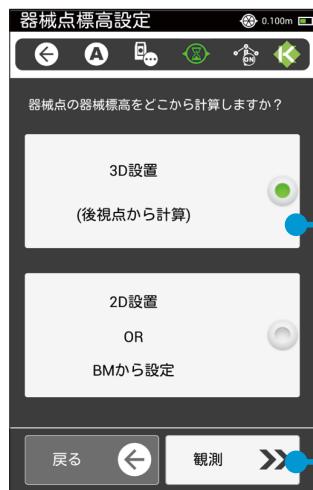
任意点に器械を据えて既知点を2点以上測定することで、後方交会法で器械設置を行います。

01 | 器械標高の計算方法を選択し、既知点（1点目）を設定します。

1 [器械設置] → [任意点設置] をタップします。



2 器械標高の計算方法を選択します。



4

3 プリズム高を入力します。



4 観測する既知点（1点目）を、
[LIST] または [MAP] から選択します。



後視点の選択について

[LIST] または [MAP] から選択します。
詳しくは、以下のページをご参照ください。

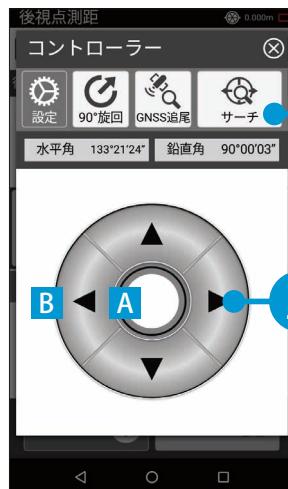
P110 : 点を選択する

02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」すること
で自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



03 | 測距します。

1 後視点にプリズムを設置し、測距します。



後視点に
設置



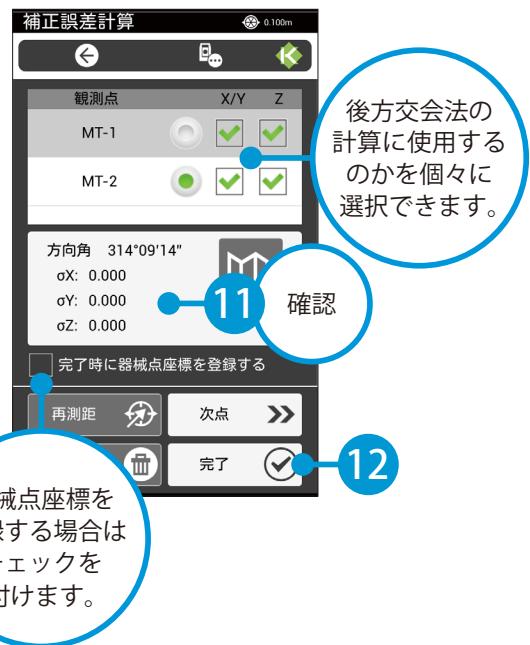
2 プリズム高を入力します。



3 観測する既知点（2点目）を選択します。
1点目と同様に測距し、計算します。



4 後方交会法で器械点が計算され、標準偏差で精度を確認し、完了します。



5 [完了時に器械点座標を登録する] にチェックを付けた場合、
計算された器械点座標を登録します。点名を入力します。

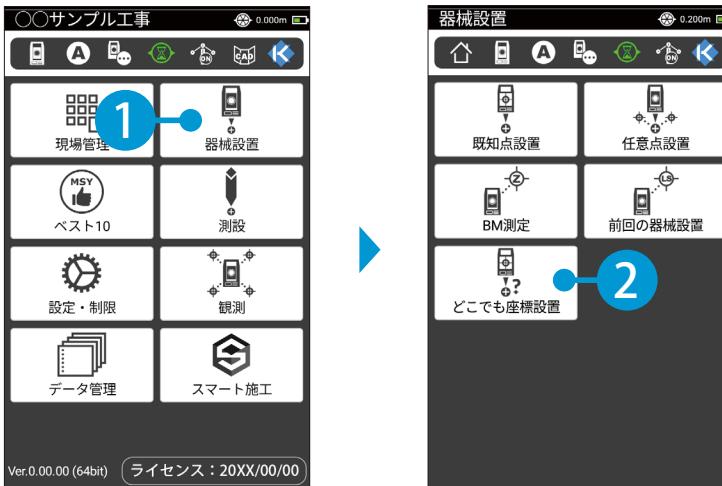


任意（ローカル）座標で機械を設置する

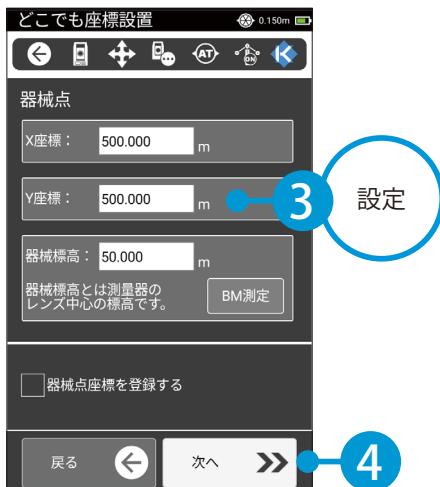
公共座標を持たない民間工事の現場等において、機械点を任意の座標として機械設置を行います。

01 | 機械点のX座標、Y座標、機械標高を設定します。

- 1 [機械設置] → [どこでも座標設置] をタップします。



- 2 任意点座標として機械点のX座標、Y座標、機械標高を設定します。



機械点のX,Y, 器械標高について

任意座標のため、機械点座標の初期値は、
X : 500 m、Y : 500 m、機械標高 : 50 m
としています。
「BM測定」でベンチマークから機械標高を
計測することもできます。

02 | 測量機の水平角を0セットします。

- 1 測量機を基準にしたい方向に向けて [OK] をタップします。



03 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

- 1 コントローラーを起動します。



- 2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



自動観測の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観測して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は右記のアイコンに変わります。



04 測量機の盛替時に使用する基準点を2点以上設置します。

1 現在位置が赤い○で表示されます。

基準点を設置し、[記録] をタップして座標値を記録します。



1 基準点
を設置

2

①、②を繰り返し、
基準点を2点以上
設置して [完了]
をタップします。

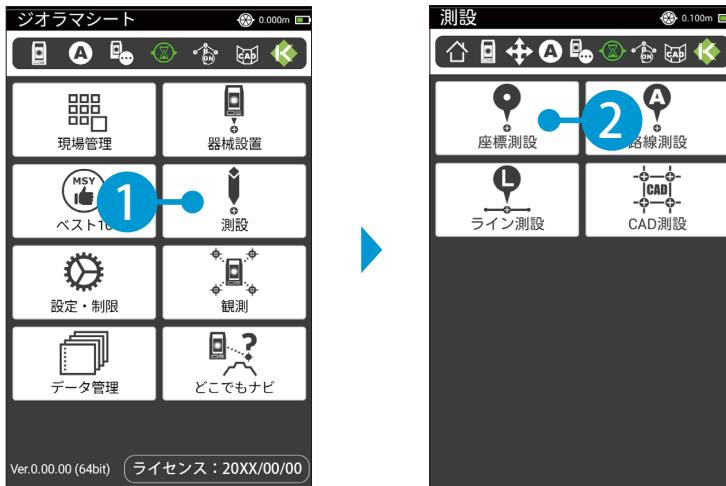
3

座標測設をする

設計の座標値に対して杭打ち誘導を行います。

01 | 杭打ちしたい座標点を選択します。

- 1 [測設] → [座標測設] をタップします。

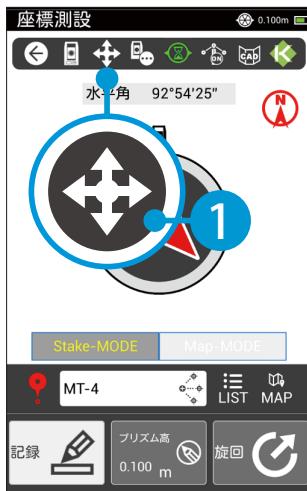


- 2 杭打ちしたい座標点を、[LIST] または [MAP] から選択します。

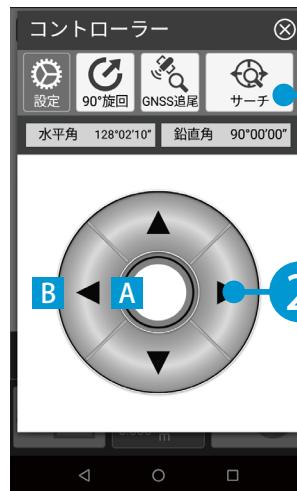


02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」すること
で自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに
変わります。



GNSS 追尾について

測量機がプリズムを追尾中に障害物で遮られたとき、端末の位置情報を利用して、端末の方向へ測量機を向けることができます。

※新規現場作成時に「平面直角座標系」「測地系」を設定しておく必要があります。

※器械設置が完了している必要があります。



03 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動して杭打ちをします。

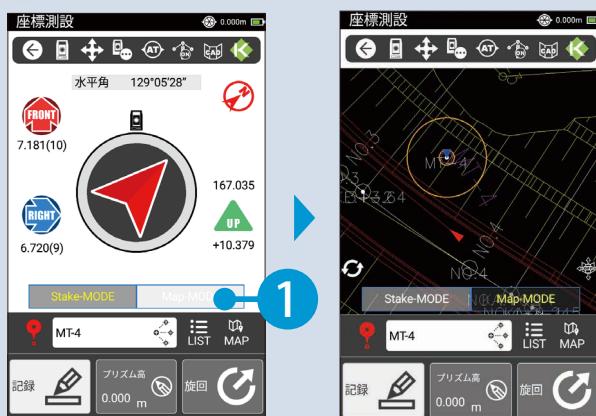


画面に従い移動します。

1

誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



また、「Map-MODE」に切り替え、マップを見ながら設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。

背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

P111:
マップの背景に CAD 図面を配置する

2 杖打ちした点の座標値を記録する場合は、[記録] をタップします。
記録点名を確認、入力します。

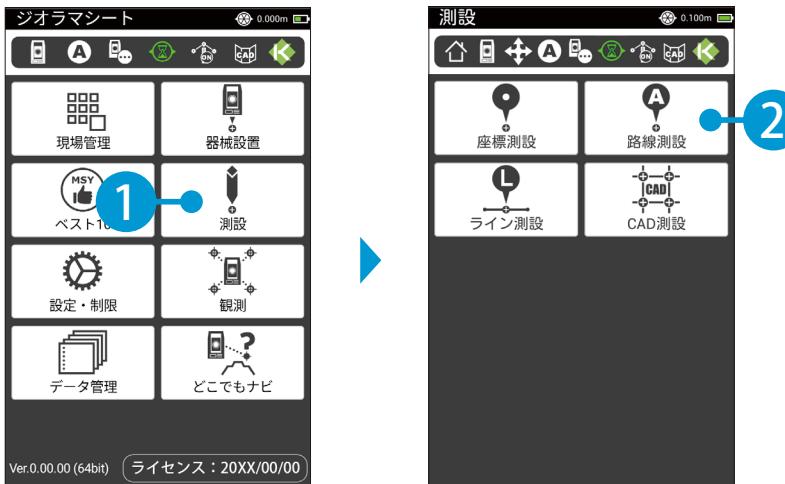


路線データを利用し、測設する

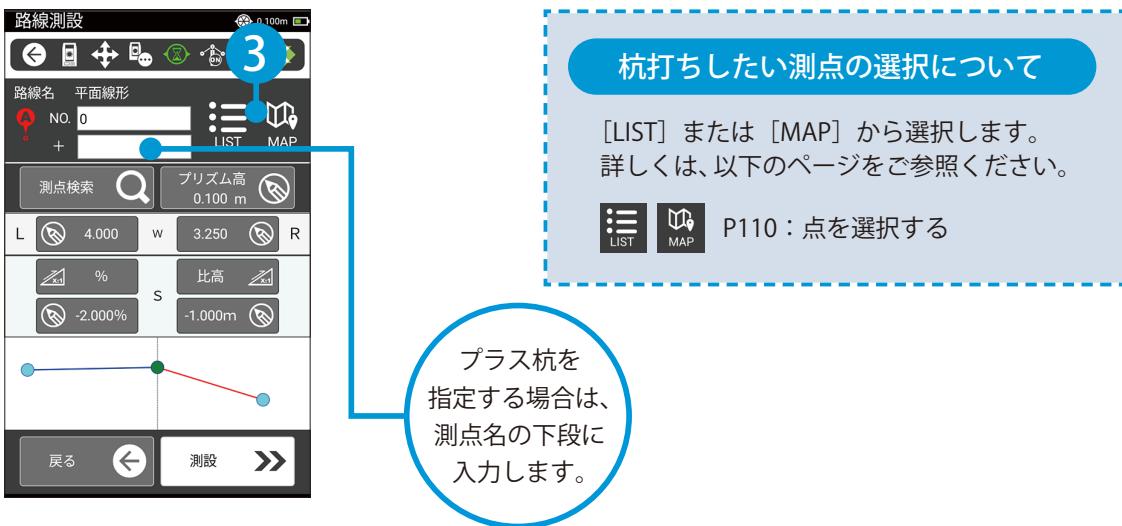
路線データを利用し、路線のセンターやセンターからの左右端部の杭打ち誘導を行います。

01 | 杭打ちしたい座標点を選択します。

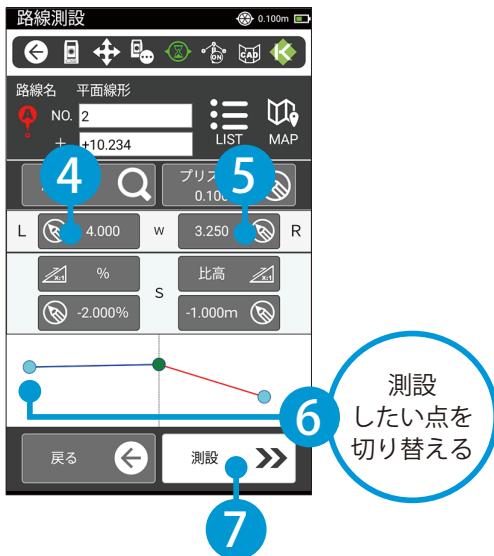
- 1 [測設] → [路線測設] をタップします。



- 2 杭打ちしたい測点を、[LIST] または [MAP] から選択します。



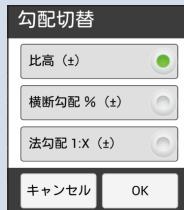
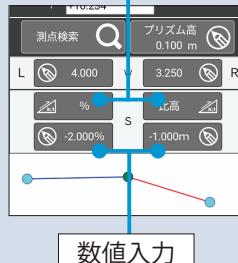
3 端部を測設する場合は、左右の幅を入力します。



比高・横断勾配・法勾配の入力

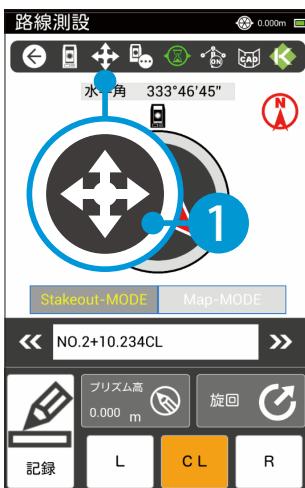
入力項目を切り替え、数値を入力します。

入力項目の切替

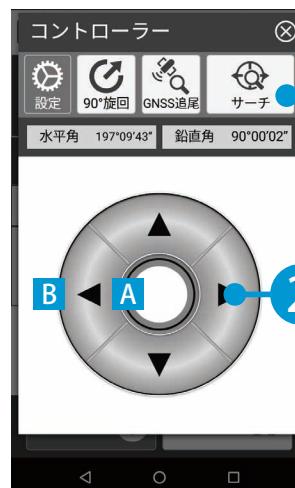


02 プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
- B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23をご参照ください。

自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」すること
で自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。

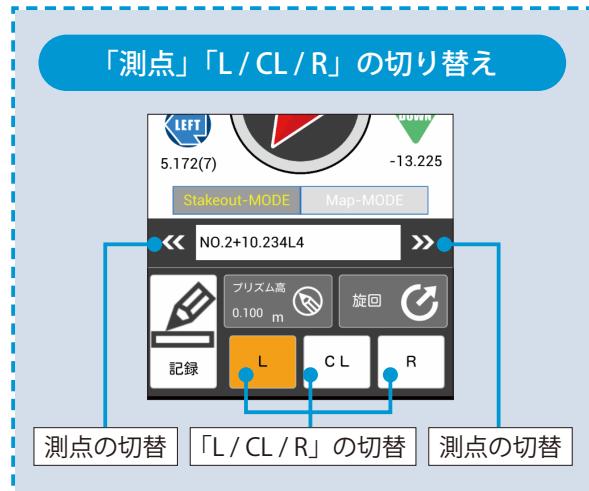


03 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動して杭打ちをします。



1
画面に従い移動します。



誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



5m 以上



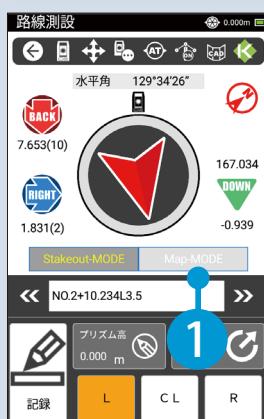
5m 以内



1m 以内



10cm 以内



また、「Map-MODE」に切り替え、マップを見ながら設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。

背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

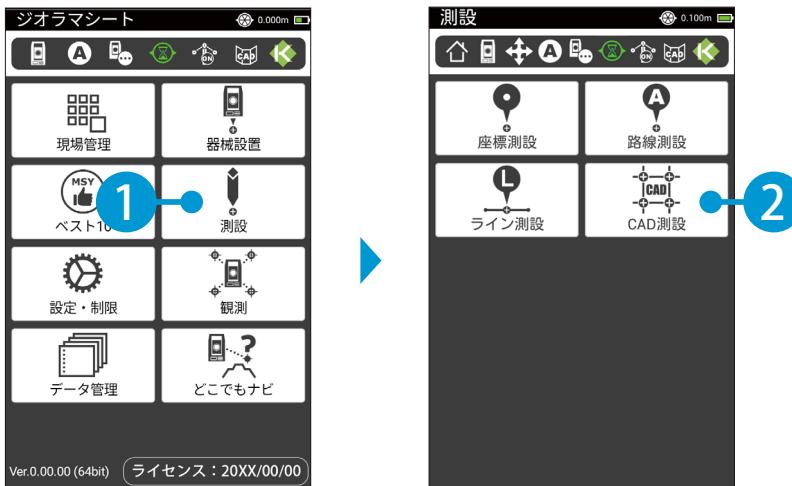
P111：
マップの背景に CAD 図面を配置する

CADデータを利用し、測設する

CADデータを利用し、CADの線の交点や端点の座標値を直接取得して杭打ち誘導を行います。

01 | CAD図面上の杭打ちしたい座標点を選択します。

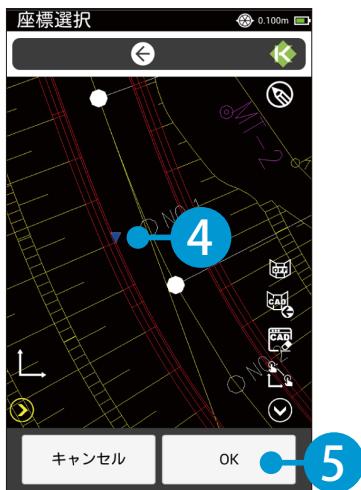
- 1 [測設] → [CAD測設] をタップします。



- 2 [MAP] をタップします。



3 CAD 上の杭打ちしたい点を直接タップします。

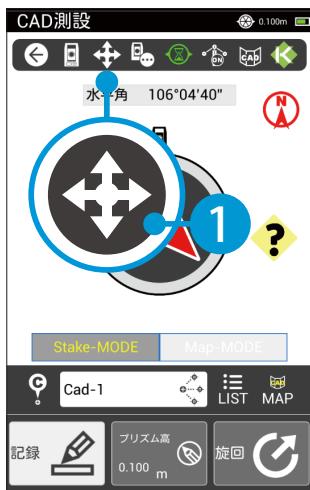


マップの背景に CAD 図面を配置する場合

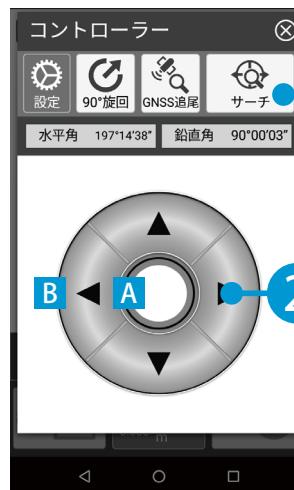
詳しくは、以下のページをご参照ください。
P111：マップの背景に CAD 図面を配置する

02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A** 円の内側
ゆっくり動きます。
- B** 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



03 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動して杭打ちをします。



画面に従い移動します。

誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。

The diagram illustrates four stages of the guidance display:

- 5 m 以上:** Shows a compass rose with 'FRONT' and 'RIGHT' markers, and distance values 6.665(9) and 2.489(3). It also shows a green 'UP' arrow and a value +1.464.
- 5 m 以内:** Shows a compass rose with 'FRONT' and 'RIGHT' markers, and distance values 2.564 and 1.866. It includes a red 'DOWN' arrow and a value +0.580.
- 1 m 以内:** Shows a compass rose with 'FRONT' and 'RIGHT' markers, and distance values 0.434 and 0.359. It includes a green 'UP' arrow and a value -0.306.
- 10 cm 以内:** Shows a compass rose with 'FRONT' and 'LEFT' markers, and distance values 0.007 and 0.001. It includes a red 'DOWN' arrow and a value -0.006.

また、「Map-MODE」に切り替え、マップを見ながら設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

P111：
マップの背景に CAD 図面を配置する

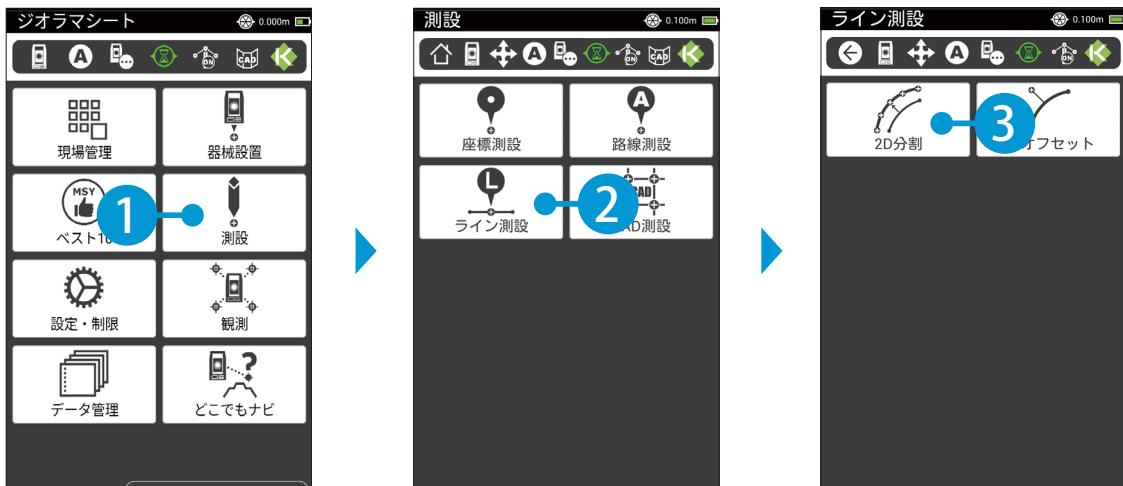
The screenshot shows the 'CAD測設' application in 'Map-MODE'. The background is a map with grid lines and labels like 'NO.1', 'CROOKS', and 'NO.2'. The bottom half of the screen shows the same interface elements as the Stake-MODE screenshot, including the compass rose and coordinate information.

ラインを分割した点を測設する

直線や曲線のラインを設定し、ライン上を分割した点の測設を行います。

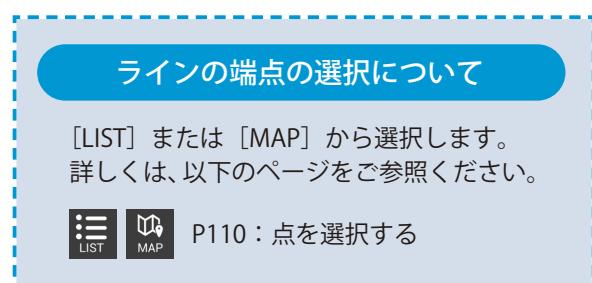
01 ラインを分割する点を作成し、選択します。

- 1 「測設」→「ライン測設」→「2D分割」をタップします。



- 2 ラインを設定します。

ラインの端点（1点目・2点目）を選択します。



3 ラインの種類、設定したラインを分割する方法を選択します。



6 曲線の場合は、「曲線の方向」と「半径 (R)」を入力します。

7 「分割する距離」または、「分割数」を入力します。

8

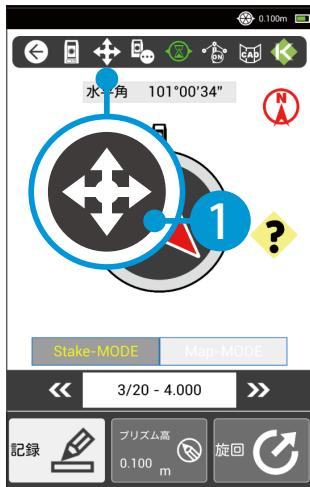


9 オフセットする場合は、「方向」「オフセット距離」を入力します。

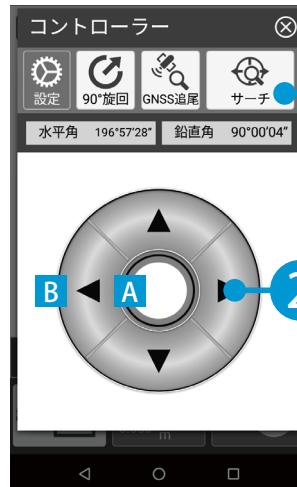
10

02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動視準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動視準して測定します。

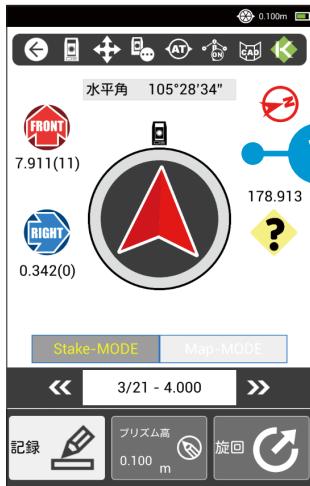
プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



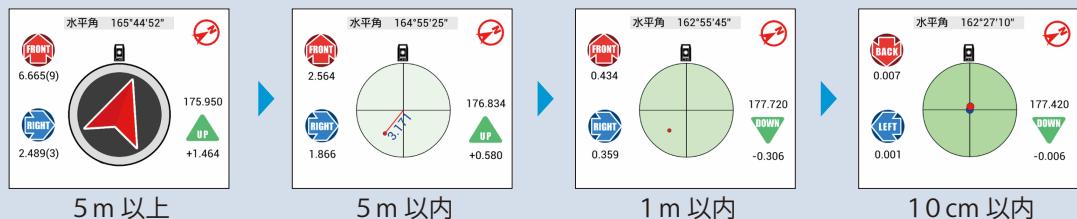
03 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動します。



誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



また、「Map-MODE」に切り替え、マップを見ながら設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。

背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

P111：
マップの背景に CAD 図面を配置する

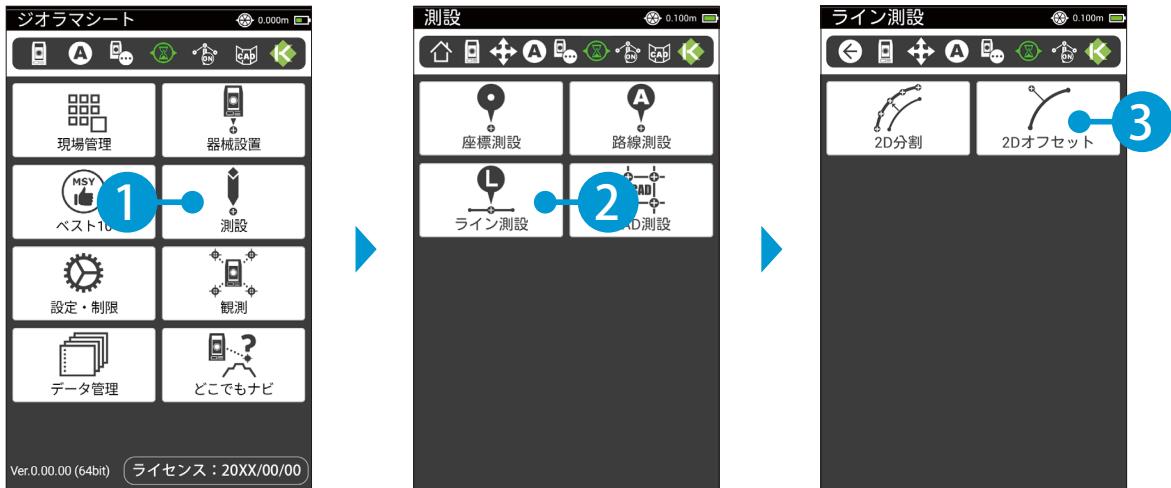


ラインを基準にオフセットした点を測設する

直線や曲線のラインを設定し、ライン始点からの距離、左右オフセットした点の測設を行います。

01 | ラインを作成し、基準点とオフセットした点を設定します。

- 1 [測設] → [ライン測設] → [2D オフセット] をタップします。



- 2 ラインを設定します。

ラインの端点（1点目・2点目）を選択します。



ラインの端点の選択について

[LIST] または [MAP] から選択します。
詳しくは、以下のページをご参照ください。



P110：点を選択する

3 ラインの種類と基準点を設定します。



曲線の場合は、「曲線の方向」と「半径 (R)」を入力します。

基準点からの距離を入力

ライン上の指定した距離の点が計算されます。
計算された点から左右にオフセットする場合は、LRの設定とオフセット距離を入力します。

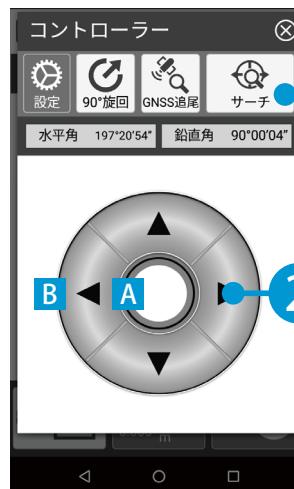


02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。
A 円の内側
ゆっくり動きます。
B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS追尾」に関しては、P23をご参照ください。

自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



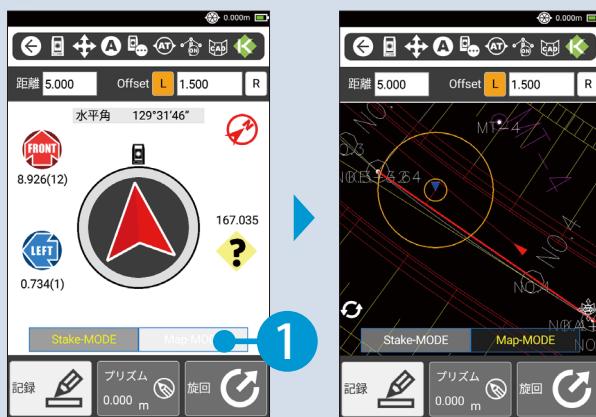
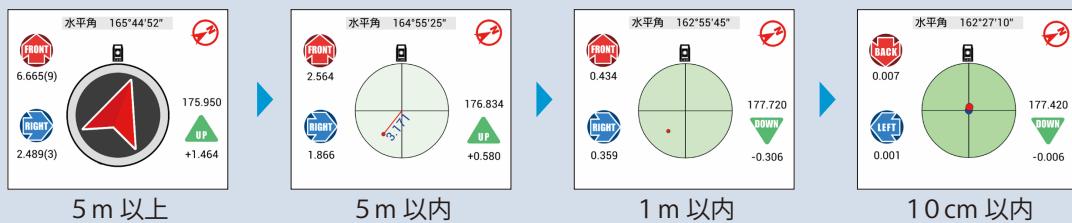
03 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動します。



誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



また、「Map-MODE」に切り替え、マップを見ながら設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。

背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

P111：
マップの背景に CAD 図面を配置する

構造物モデルを利用し、測設する

SiTE-STRUCTURE で作成し、SiTE-NEXUS で現場座標に配置した構造物モデルを利用し、モデルの端点を取得して杭打ち誘導を行います。

SiTE-STRUCTURE、または SiTE-NEXUS から快測ナビ出力した KSSX ファイルや、SiTECH 3D から出力した KSS ファイルが利用できます。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | コマンドを起動します。

- [測設] → [3D 構造物測設] をタップします。



02 | データを読み込み、杭打ちしたい点を選択します。

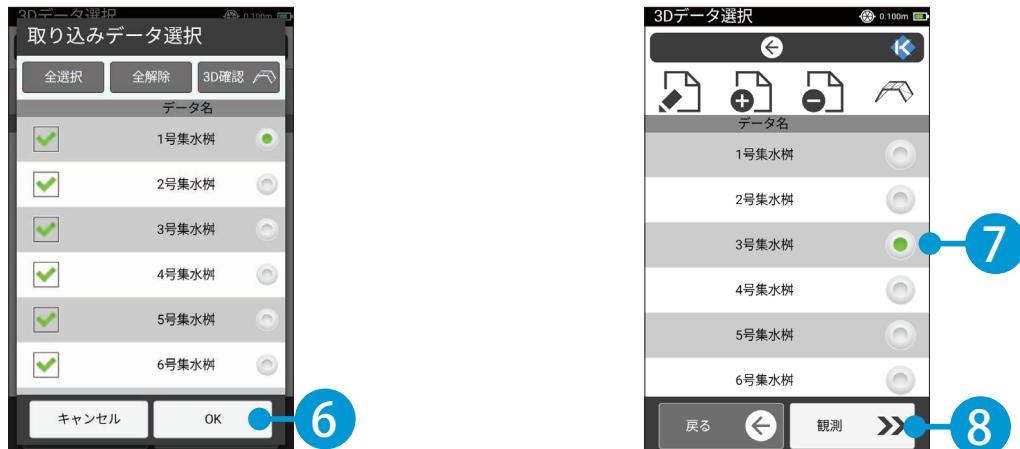
- [データ読み込み] をタップします。



2 取り込む KSSX ファイルを選択します。



3 取り込む構造物データを確認します。



5 3D ビューで杭打ちしたい座標点を選択します。

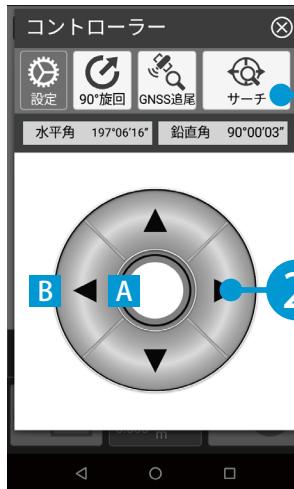


03 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23をご参照ください。

自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」すること
で自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



04 | 誘導画面に従い、移動します。

1 画面に従い、移動して杭打ちをします。



誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい設計点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



また、「マップ」や「3D」に切り替え、設計点と現在地を確認し、杭打ち点の近くまで移動することもできます。

マップの背景に CAD 図面を配置する場合は、以下のページをご参照ください。

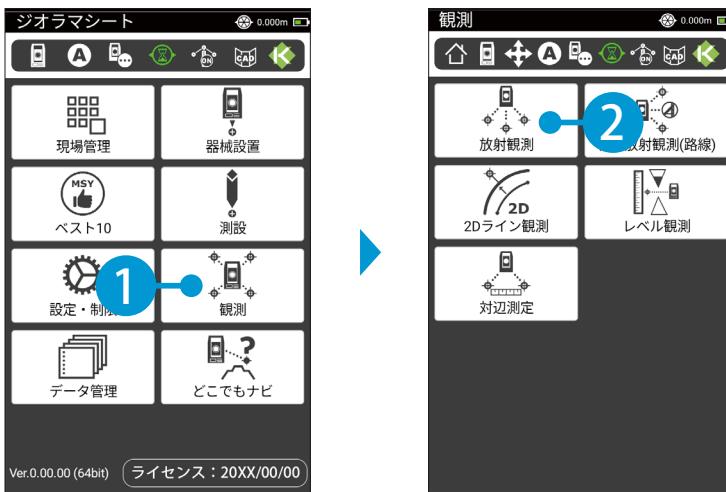
P111：マップの背景に CAD 図面を配置する

座標値を観測する

任意の場所を観測し、座標値を記録します。

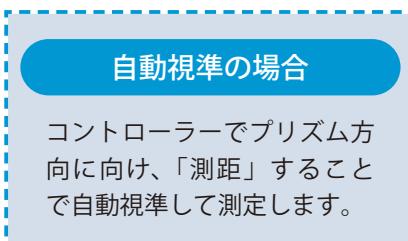
01 | コマンドを起動します。

- [観測] → [放射観測] をタップします。



02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

- コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

プリズムロック時(追尾中) のアイコン

プリズムロック時は、下記の
アイコンに変わります。



待機中

サーチ中

追尾中

03 | 任意点を観測します。

1 現在位置が赤い丸で表示されます。
観測したい位置に移動し、座標値を記録します。



画面で
確認しながら
移動します。

2 観測点記録画面で、記録の点名を入力
します。



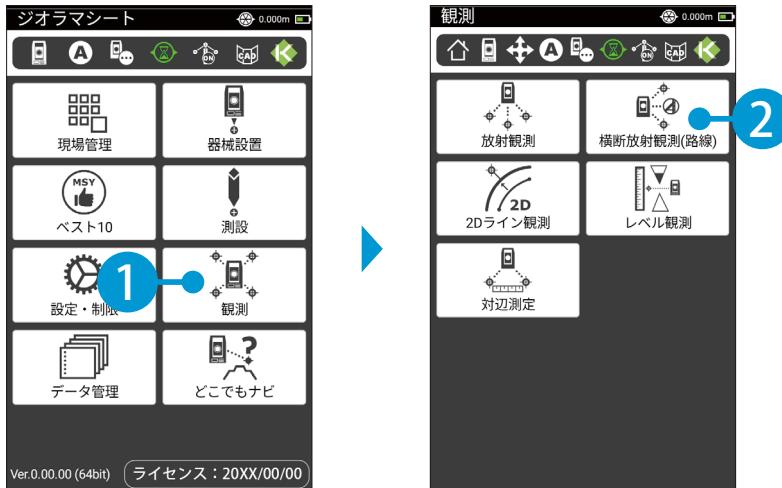
入力

路線の横断方向に誘導しながら現況横断を観測する

現況を観測したい測点の横断方向に誘導しながら、現況の変化点を観測します。

01 現況を観測したい測点を選択します。

- 1 [観測] → [横断放射観測（路線）] をタップします。



- 2 観測したい測点を選択します。

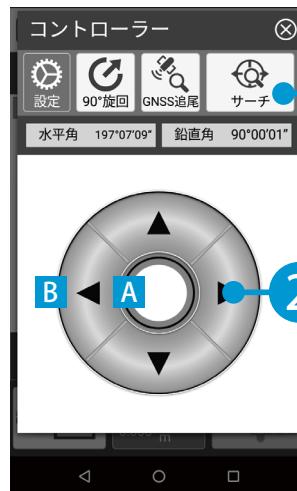


02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



3

操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動観測の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観測して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



03 | 現況横断を観測します。

1 断面離れを見ながら測点の横断方向に誘導し、現況変化点に移動します。



断面離れを
見ながら、
現況変化点へ
移動

断面離れについて

現況を測る測点の横断方向との離れです。
離れ数値0の時が測点の横断方向です。

2

現況変化点を記録します。

2点目以降は記録した点が結線され、現況横断のイメージが表示されます。

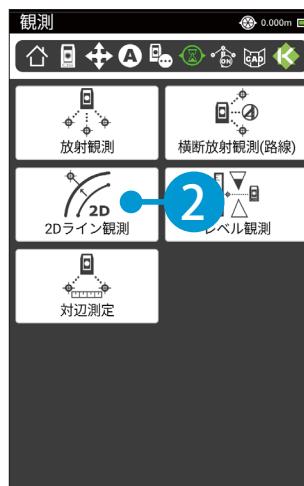


設定したラインとの離れを観測する

直線や曲線のラインを設定し、現在位置とラインとの離れを観測します。

01 | ラインを作成し、ラインの種類と基準点を選択します。

1 [観測] → [ライン観測] をタップします。



2 ラインを設定します。ラインの端点（1点目・2点目）を選択します。



3 ラインの種類とラインオフセットを設定します。



曲線の場合は、「曲線の方向」と「半径（R）」を入力します。

ラインの端点の選択について

[LIST] または [MAP] から選択します。詳しくは、以下のページをご参照ください。



P110 : 点を選択する

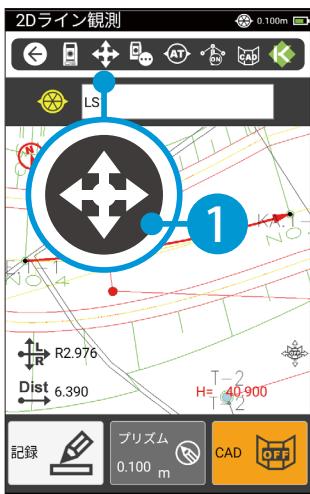
ラインをオフセットする場合

「方向」と「オフセット距離」を入力します。

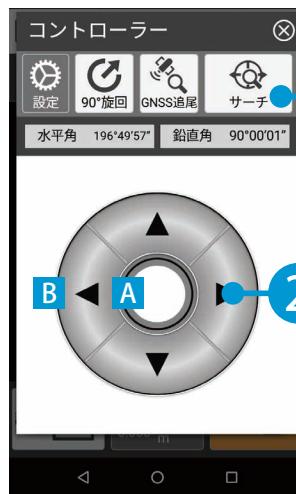


02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

- A 円の内側
ゆっくり動きます。
- B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動観準の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観準して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

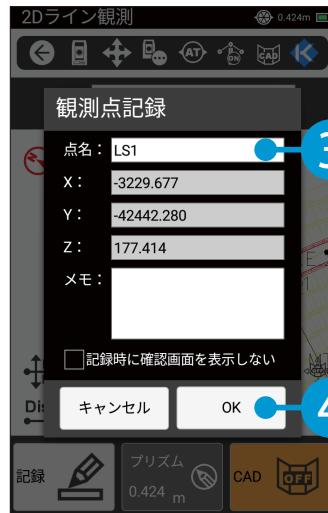
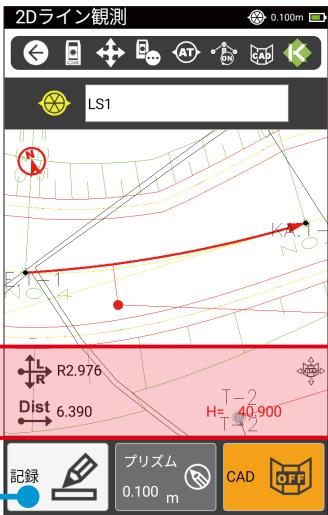
プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



03 | 現在位置とライン上の離れを観測します。

1 現在の観測位置と、指定したラインからの離れ距離、ライン始点からの距離、標高が表示されます。
数値を確認しながら移動します。

観測位置の座標を記録する場合は、「記録」をタップします。



2

数値を
確認しながら
移動します。

設定したラインとの左右離れ・標高離れを観測する

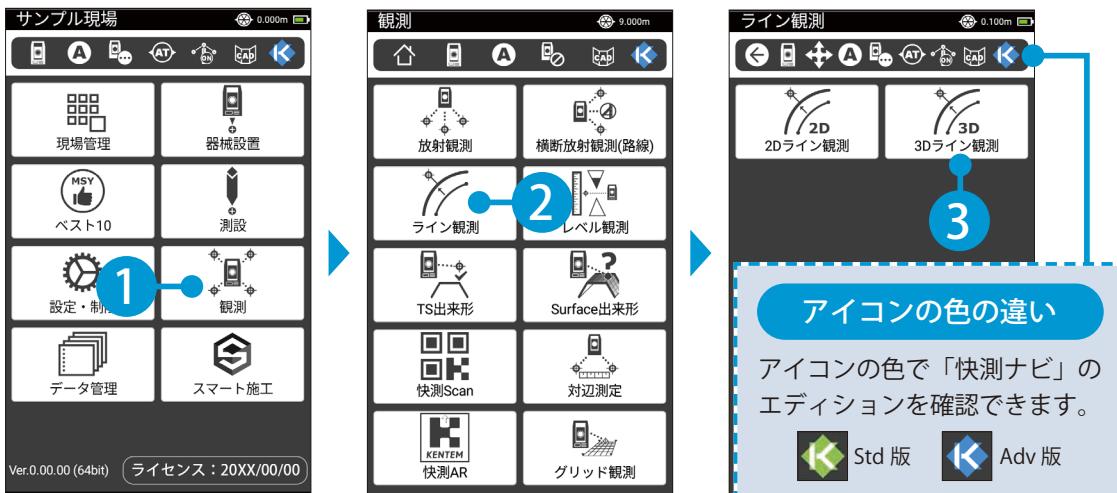
直線や曲線の3D ラインを設定し、現在位置とラインとの左右離れ・標高離れを観測します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | ラインを作成し、ラインの種類と基準点を選択します。

- 1 [観測] → [ライン観測] → [3D ライン観測] をタップします。



- 2 ラインを設定します。ラインの端点（1点目・2点目）と標高を設定します。



ラインの端点の選択について

[LIST] または [MAP] から選択します。
詳しくは、以下のページをご参照ください。

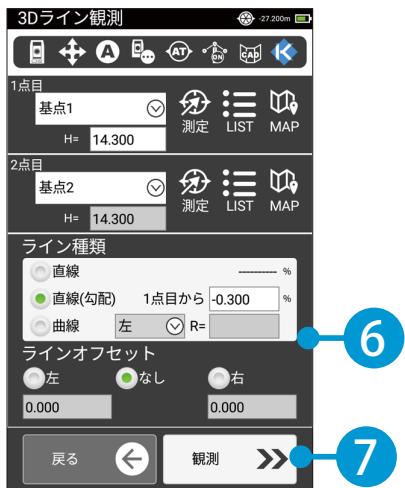
P110：点を選択する

標高について

選択した座標に標高が登録されている場合は、自動で表示されます。
手入力での編集も可能です。

3

ラインの種類とラインオフセットを設定します。



ライン種類「直線（勾配）」「曲線」について

勾配指定の場合は、1点目からの「勾配 (%)」を入力します。

曲線の場合は、「曲線の方向」と「半径 (R)」を入力します。

ラインをオフセットする場合

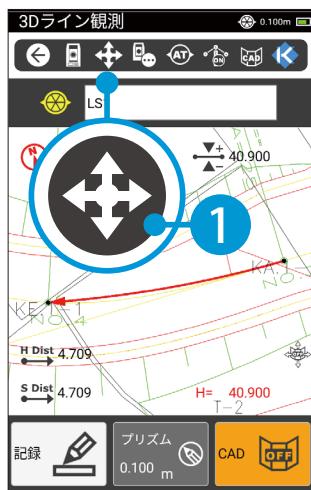
「方向」と「オフセット距離」を入力します。



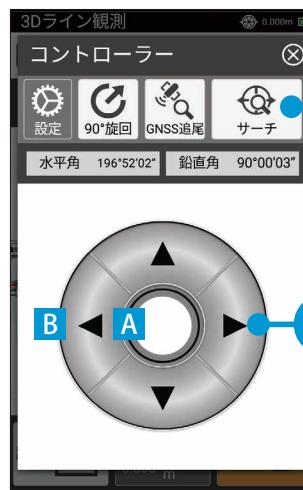
02 | プリズムをロックします。

※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



操作する場所で
測量機の旋回速度が
変わります。

A 円の内側
ゆっくり動きます。

B 円の外側
早く動きます。

※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動観測の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観測して測定します。

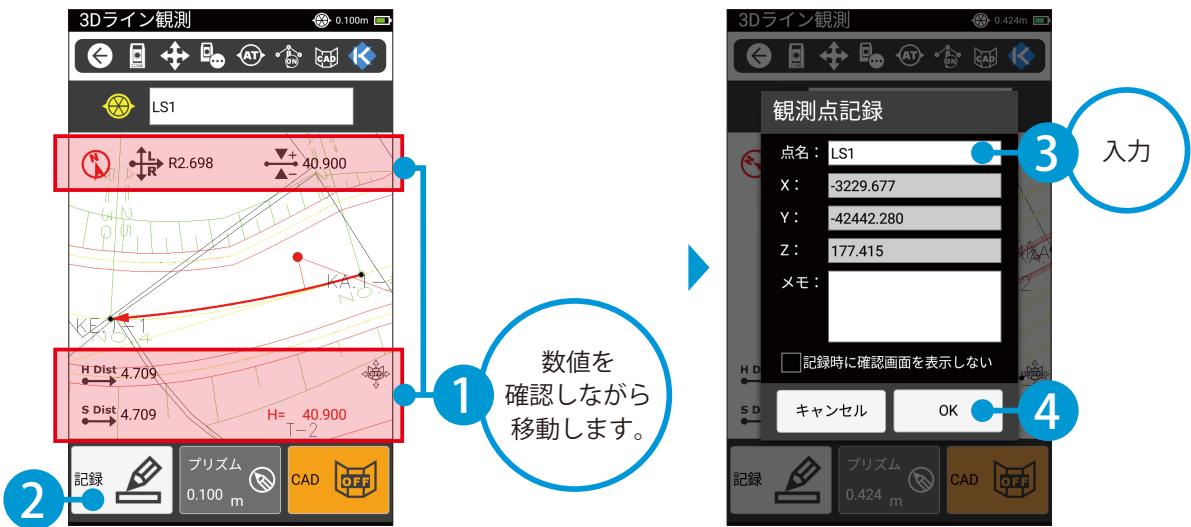
プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は
右記のアイコンに変
わります。



03 | 現在位置とライン上の離れを観測します。

- 1 現在の観測位置と、指定したラインからの離れ距離、ライン始点からの距離、標高が表示されます。数値を確認しながら移動します。
- 観測位置の座標を記録する場合は、「記録」をタップします。

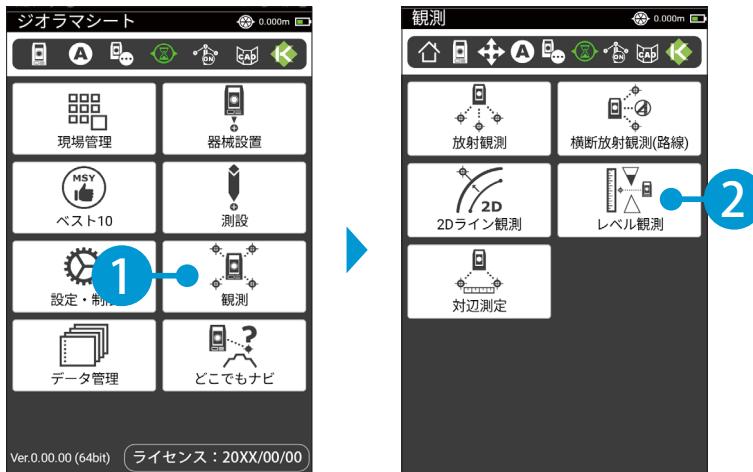


レベル観測をする

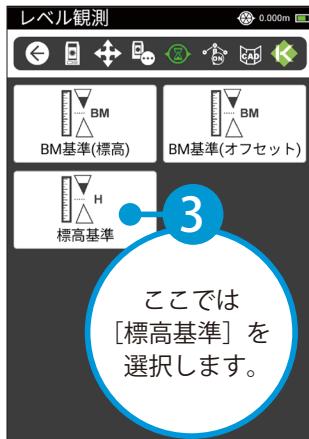
目標の高さと現在の高さの差を観測します。

01 | 基準となる高さを入力し、高さを観測します。

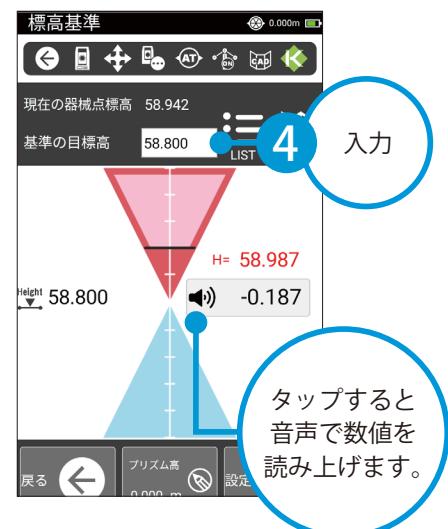
- 1 [観測] → [レベル観測] をタップします。



- 2 [BM 基準 (標高)] または [BM 基準 (オフセット)] または [標高基準] を選択します。
※ 3Dで機械設置している場合は、[標高基準]を使用します。
機械設置をしていない場合は、[BM 基準]を使用します。



- 3 [基準の目標高] を入力し、高さを観測します。



TS出来形計測・検査をする

受注者は出来形計測・記録を行い、発注者は出来形の立合・記録をします。
ここでは、受注者が観測する「TS出来形計測」で説明します。

快測ナビ（Adv版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std版」から「Adv版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

01 | 観測するモードを設定します。

- 1 [観測] → [TS出来形] → [TS出来形計測] をタップします。



⚠ ご注意

使用している計測機によっては、TS出来形の記録ができず、確認のみとなる場合があります。

アイコンの色の違い

アイコンの色で「快測ナビ」のエディションを確認できます。

Std版 Adv版

- 2 観測モードを選択します。



観測モードについて

【全自動】測点 + 横断点の自動切替

測点と横断点が、現在位置から最も近い計測対象点に自動で切り替わります。

【測点自動】測点の自動切替

測点のみ、現在位置から最も近い計測対象点に自動で切り替わります。

【横断点自動】横断点の自動切替

横断点のみ、現在位置から最も近い計測対象点に自動で切り替わります。

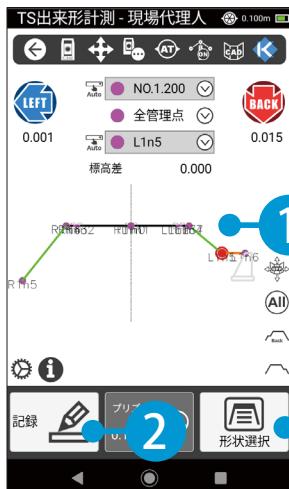
【手動】測点 + 横断点を手動選択

計測対象の測点と横断点を手動で指定します。

02 | 出来形計測点を観測します。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 現在位置が赤い丸で表示されます。

設計値に近づきながら、出来形を記録します。



1 画面で確認しながら移動します。



複数の構築形状を同時に表示できます。

2 出来形結果記録画面で、記録点名を入力します。



3 入力

4 OK

画面上部のボタン・数値について

測点・出来形管理項目・横断点の選択や、CL・断面離れ・標高差が表示されます。

観測モードの自動／手動の切り替え

測点名

観測モードが「全自動」「測点自動」以外の場合は設定します



横断点名

観測モードが「全自動」「横断自動」以外の場合は設定します

出来形管理項目

各出来形管理項目を選択すると「設計値」「実測値（現場代理人や品質証明員）」「差」が表示され、出来形結果を見ながら移動できます

TS 出来形設定について

TS 出来形に関わる制限などを設定できます。

メイン画面の「[設定・制限]」→「[TS 出来形設定]」をタップします。



どこでも出来形を使用する

平面 + 縦断 + 横断の3次元設計データを元に、任意な場所に対して、設計との標高差・鉛直差をリアルタイムに計測します。

快測ナビ（Adv版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std版」から「Adv版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

01 | 観測するモードを設定します。

- 1 [観測] → [TS出来形] → [どこでも出来形] をタップします。



アイコンの色の違い

アイコンの色で「快測ナビ」のエディションを確認できます。



- 2 観測モードを選択します。



観測モードについて

横断点自動

横断点は、現在位置から最も近い計測対象点に自動で切り替わります。

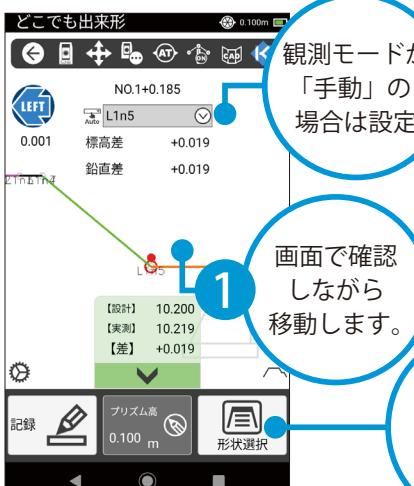
手動

計測対象の横断点を手動で指定します。

02 | 任意点を観測します。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 現在位置が赤い丸で表示されます。

出来形を確認したい位置に移動し、標高差と鉛直差を確認します。



2 観測点を記録したい場合は、[記録] をタップします。



3 出来形結果記録画面で、記録点名を入力します。



TS ローバー観測をする

3次元設計データに対して、グリッドサイズごとにプリズムで計測・記録をします。ヒートマップで出来栄えを確認しながら作業できます。

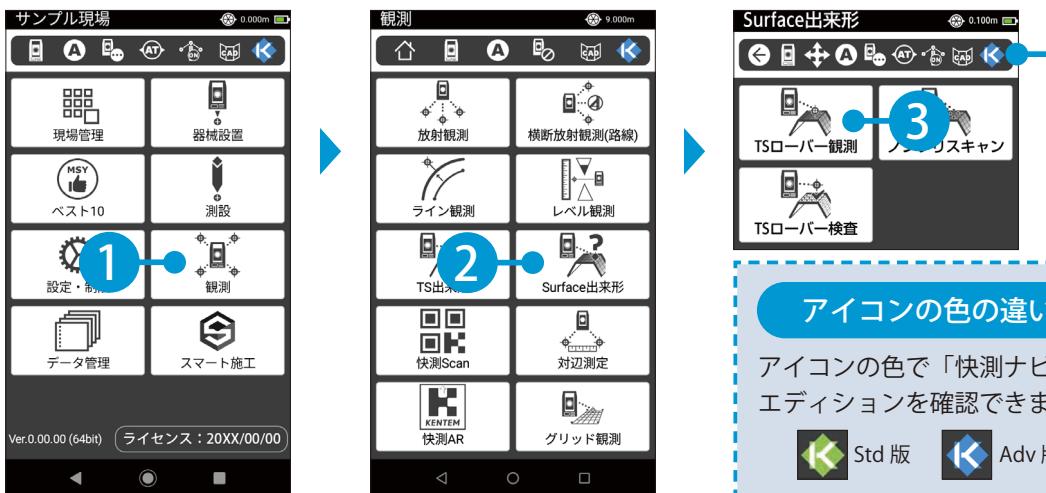
快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

※ご使用の測量機器によっては、機能が使用できない場合があります。対応測量機器については、弊社 HP の動作環境をご覧ください。

01 グリッドデータを追加します。

- [観測] → [Surface 出来形] → [TS ローバー観測] をタップします。



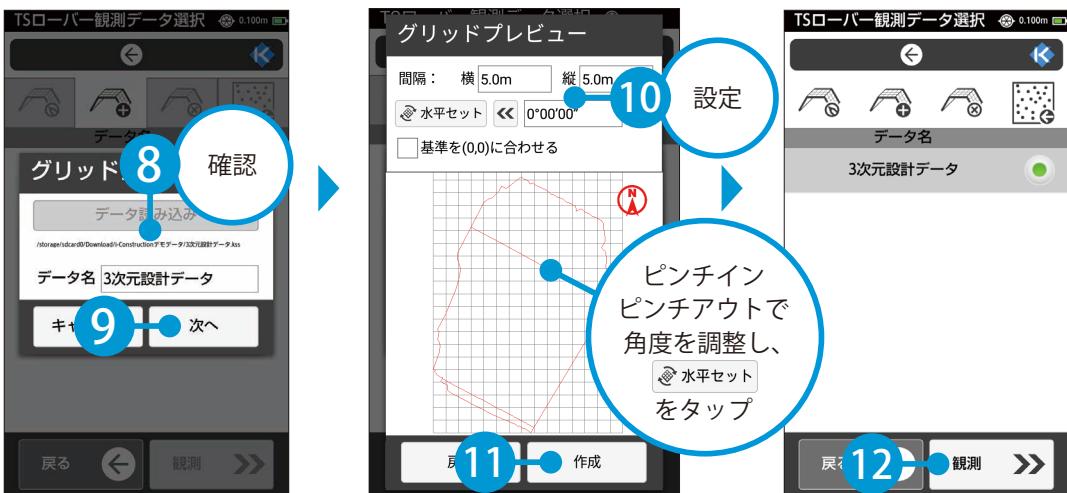
- グリッドデータを選択します。



取り込めるファイルについて

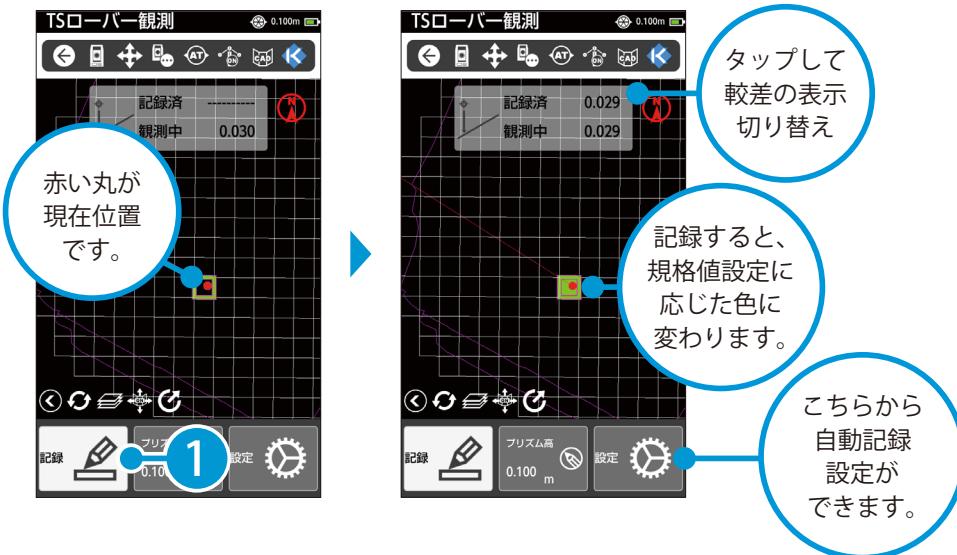
取り込めるファイルは、「SiTECH 3D」等から出力した KSS 形式のファイルです。こちらはオリジナルの TIN データです。

3 グリッドと角度を設定します。



02 | 観測位置と設計面との標高較差、水平較差、垂直較差を確認します。

1 観測位置と設計面との較差を確認・記録します。



ノンプリスキャンをする

3次元設計データに対して、グリッドサイズごとにノンプリズムで自動計測・自動記録します。ヒートマップで出来栄えを確認しながら作業できます。

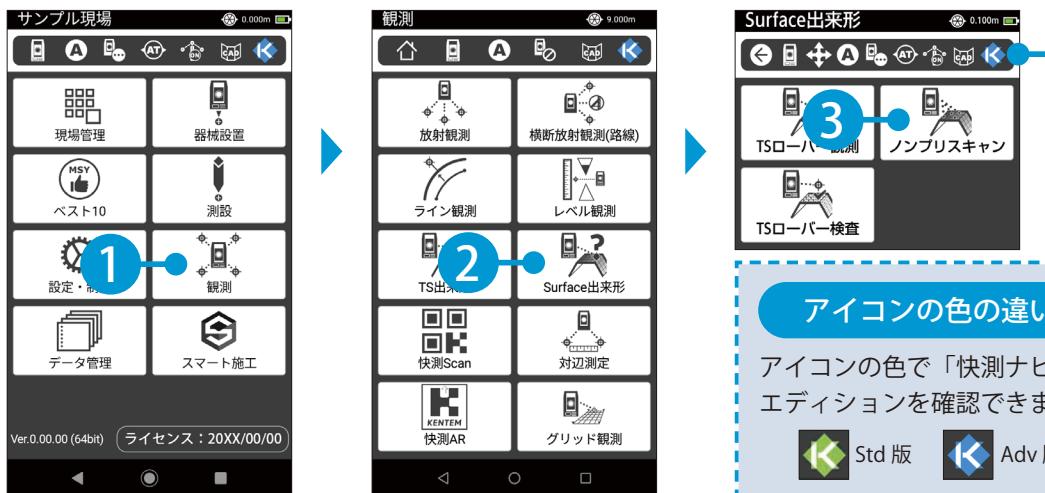
快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

※ご使用の測量機器によっては、機能が使用できない場合があります。対応測量機器については、弊社 HP の動作環境をご覧ください。

01 グリッドデータを追加します。

- 1 [観測] → [Surface 出来形] → [ノンプリスキャン] をタップします。



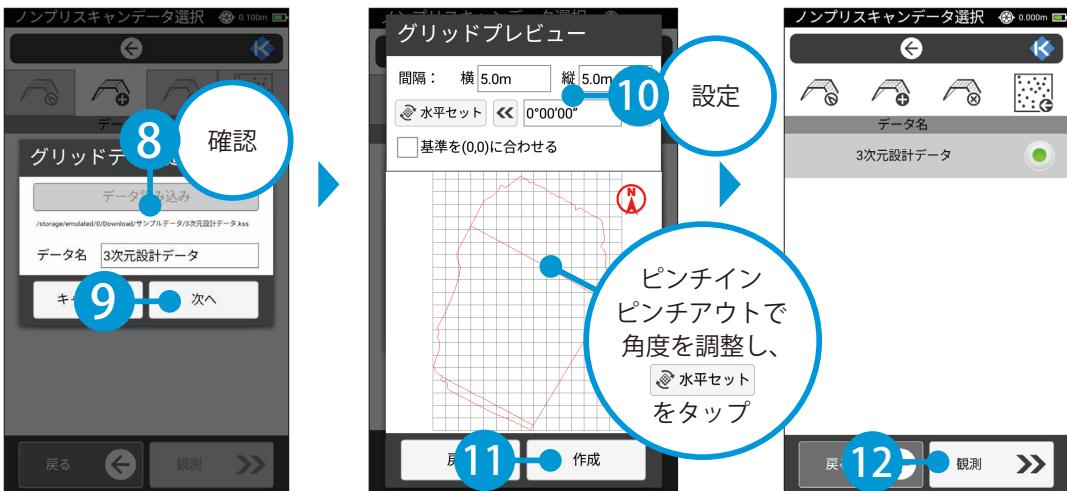
- 2 グリッドデータを選択します。



取り込めるファイルについて

取り込めるファイルは、「SiTECH 3D」等から出力した KSS 形式のファイルです。こちらはオリジナルの TIN データです。

3 グリッドと角度を設定します。



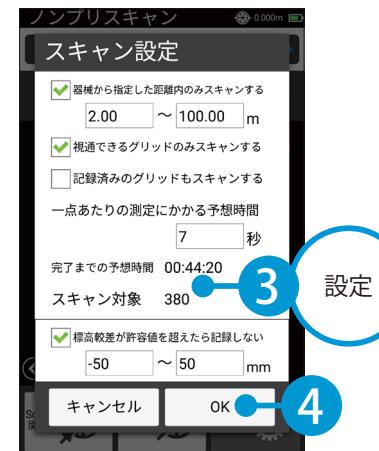
02 | ノンプリスキャンを開始し、標高較差、水平較差、垂直較差を確認します。

Scan 開始（自動でスキャンしていく場合）

1 [設定] → [スキャン設定] をタップします。



2 自動スキャンの設定をします。



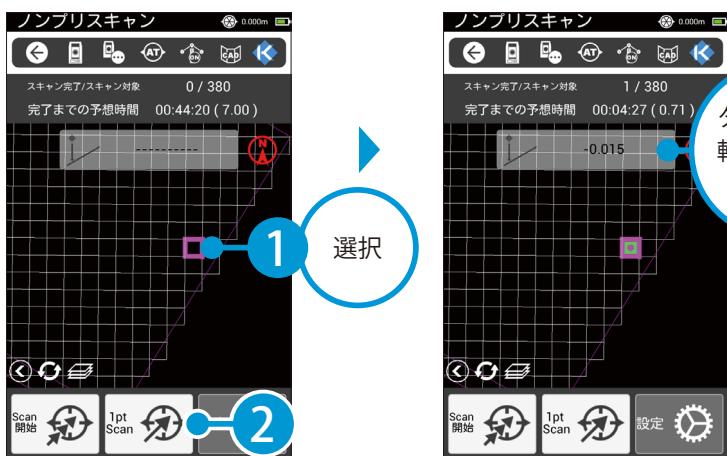
3 スキャンを開始します。[Scan 開始] をタップします。



タップして
較差の表示
切り替え

1ptScan (任意のポイントをスキャンしていく場合)

1 スキャンするポイントを選択し、[1ptScan] をタップします。



タップして
較差の表示
切り替え

TS ローバー検査をする

3 次元設計データと出来形評価用データを取り込み、指定した点を観測して、実測値と設計値との較差が規格値内か検査します。

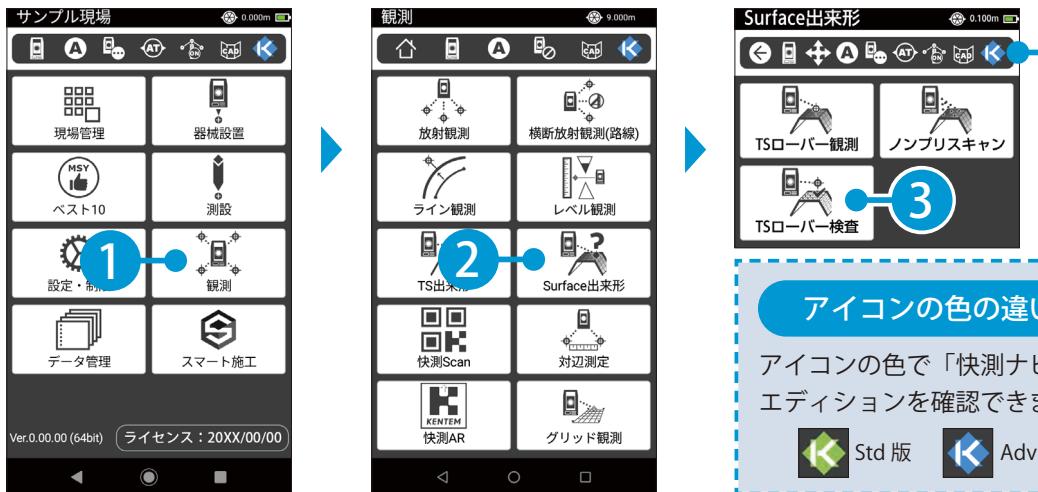
快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

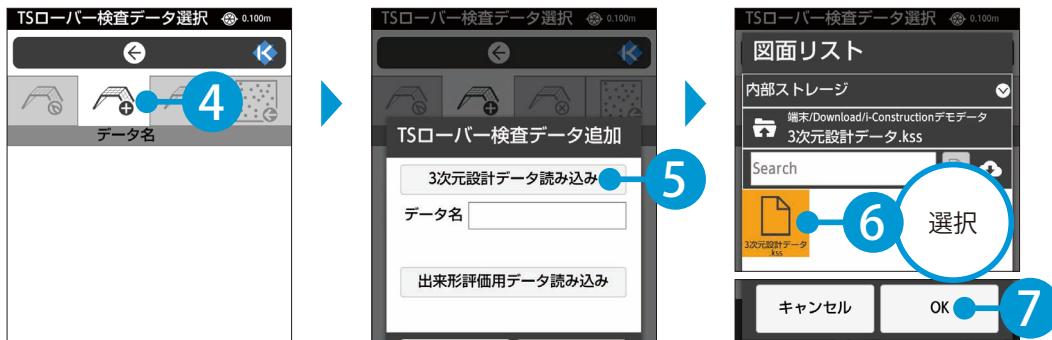
※ご使用の測量機器によっては、機能が使用できない場合があります。対応測量機器については、弊社 HP の動作環境をご覧ください。

01 | 3 次元設計データ・出来形評価用データを追加します。

- 1 [観測] → [Surface 出来形] → [TS ローバー検査] をタップします。



- 2 3 次元設計データを読み込みます。



取り込めるファイルについて

取り込めるファイルは、「SITECH 3D」等から出力した KSS 形式のファイルです。こちらはオリジナルの TIN データです。

3 出来形評価用データを読み込みます。



取り込めるファイルについて

取り込めるファイルは、測量座標系 XYZ の並びの CSV 形式ファイルです。

02 | 実測値と設計値との較差を確認します。

1 検査する点を選択します。



検査点フラグについて

検査する点をタップし、画面左上の検査マークをタップすると、検査マークが赤に変わります。



この状態で [設定] → [表示設定] をタップし、[検査点フラグの点のみ表示する] にチェックを付けると、設定した点のみ表示されます。

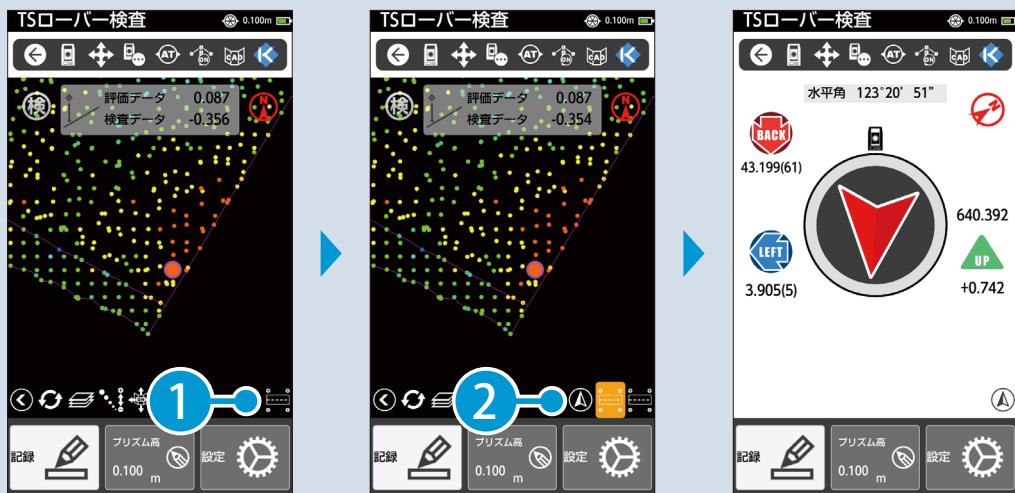
2

検査する点まで移動し、較差を確認します。



検査点までの移動について

画面右下の□をタップし、Ⓐをタップすると、誘導画面に切り替わります。



誘導時の画面表示について

プリズムと誘導したい検査点までの距離によって、誘導画面が以下のように切り替わります。



グリッド観測を使用する

観測したい範囲を座標から指定し、範囲内のグリッドを塗りつぶしながら座標を記録できます。観測漏れがないように確認しながら現況を1点 /0.25m²ごとに観測したいシーンなどで活用できます。

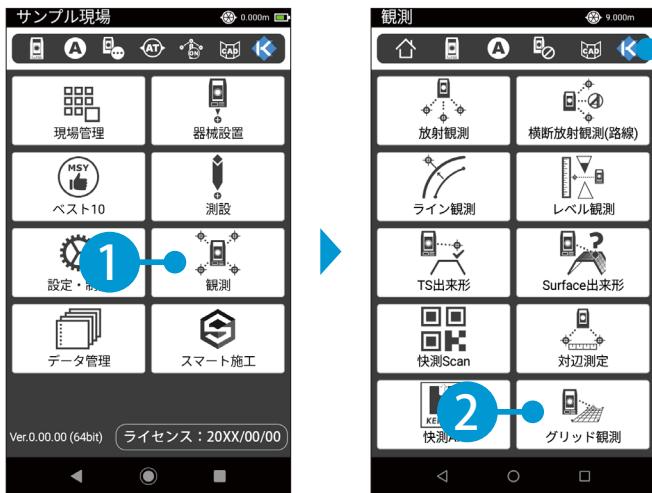
快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P111 をご参照ください。

※ご使用の測量機器によっては、機能が使用できない場合があります。対応測量機器については、弊社 HP の動作環境をご覧ください。

01 | 観測したい範囲を設定し、グリッドを作成します。

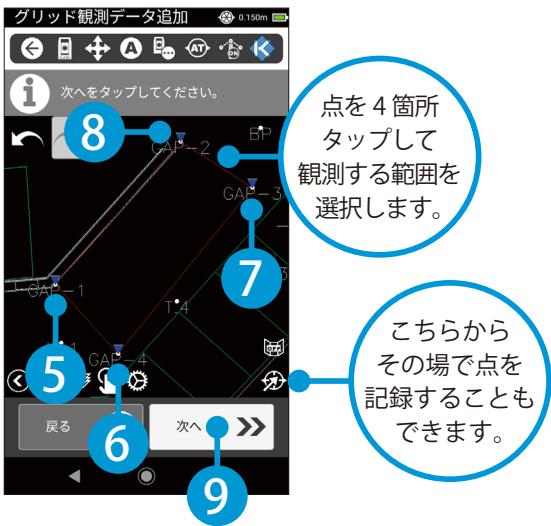
- 1 [観測] → [グリッド観測] をタップします。



- 2 グリッドデータを追加します。



3 登録されている座標から観測する範囲を選択します。

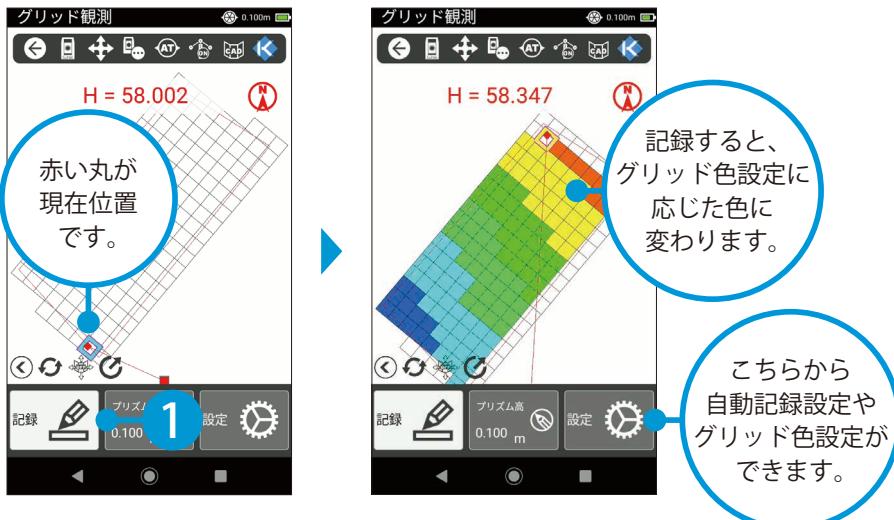


4 グリッドと角度を設定します。



02 | グリッドごとに座標値を記録します。

1 グリッドに対して観測位置を確認・記録します。



グリッド色設定について

グリッド観測機能で記録した点は、グリッド色設定に応じた色で塗られていきます。

記録した点の高低差を視覚的に把握しながら観測が行えます。

標高の最大値と最小値は、グリッド色設定で変更が可能です。

設定した標高の最大値と最小値に応じて、標高ごとに色が設定されます。



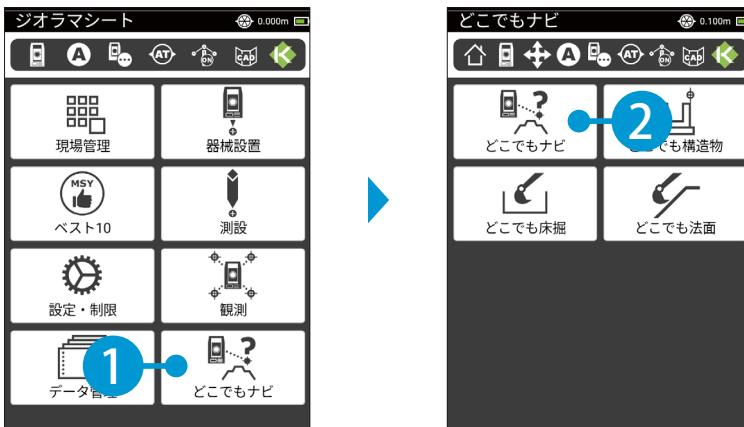
どこでもナビを使用する

現在位置の計画横断形状をリアルタイムに表示します。横断形状の離れや標高差のガイドに従い、構造物の設置位置などをナビゲーションします。

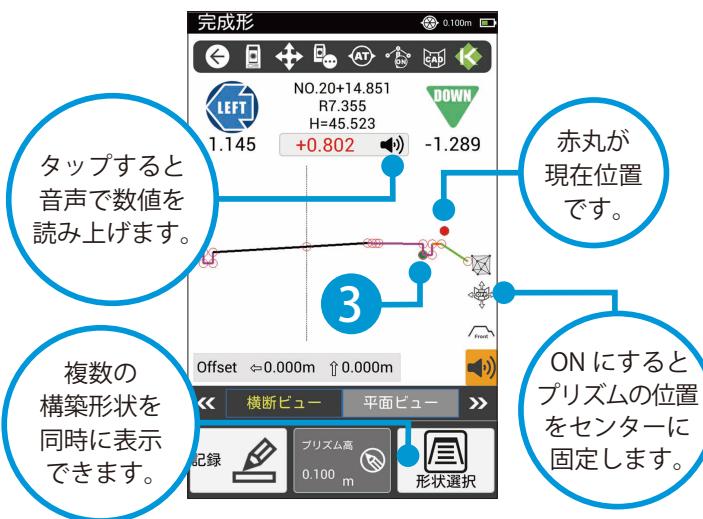
01 現在位置と計画横断形状を表示し、これをガイドに目標の位置まで移動します。

- 1 [どこでもナビ] → [どこでもナビ] をタップします。

※ Adv 版をお使いの場合は、[スマート施工] → [どこでもナビ] → [どこでもナビ] をタップしてください。

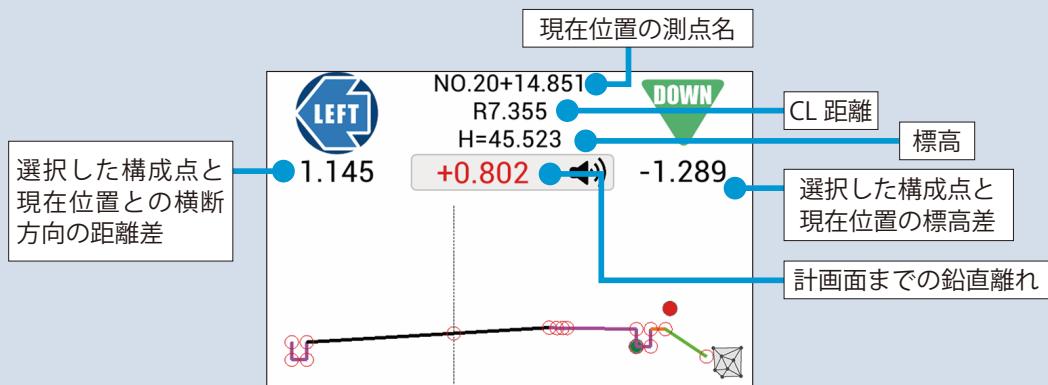


- 2 計画横断形状の構成点をタップすると、選択した構成点と現在位置の横断方向の距離差と標高差が表示されます。



画面上部の数値について

現在の観測位置から測点名、センターからの CL 距離、標高が表示され、リアルタイムに計画横断形状が表示されます。



サウンド設定について

設計との差を音で知らせる機能です。「MG」「設計面」「設計点」別に設定ができます。

※ をタップすることで、サウンドの ON/OFF が切り替えられます。



どこでも構造物を使用する

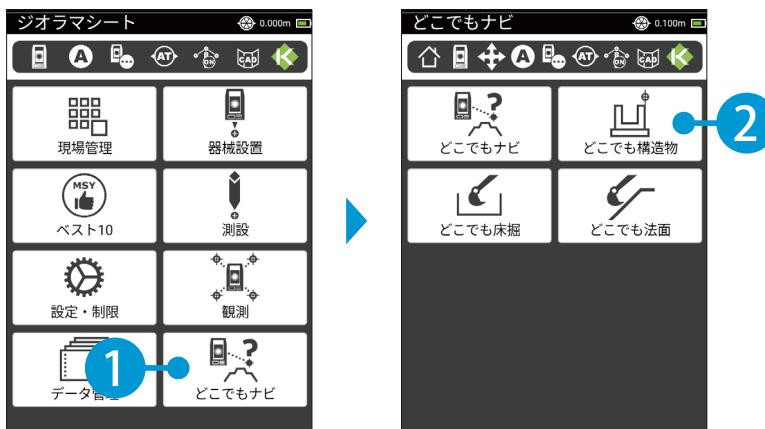
3D 施工データに基づき、構造物設置作業における位置と高さの離れをどこでもナビゲーションします。

※この機能は、「自動追尾」で接続した場合のみ使用可能です。

01 | プリズム高の入力と作業する構築形状を選択します。

- 1 [どこでもナビ] → [どこでも構造物] をタップします。

※ Adv 版をお使いの場合は、[スマート施工] → [どこでもナビ] → [どこでも構造物] をタップしてください。



- 2 プリズム高を入力し、[OK] をタップします。



- 3 表示したい構築形状と作業する構築形状を選択し、[OK] をタップします。



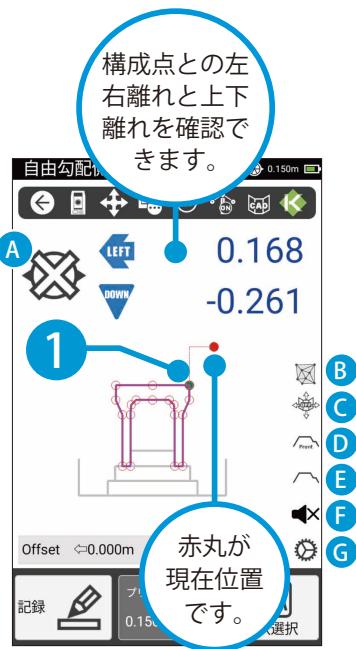
付近機能について

構築形状選択画面にて「付近」ボタンをタップすると、現在プリズムのある測点に存在する構築形状のみ表示します。多くの構築形状を作成した3D施工データを使用する場合、効率良く作業する形状を選択することができます。



02 | 左右離れ・上下離れを確認しながら、構造物の設置作業を行います。

- 1 作業の基準となる構成点をタップし、点からの左右離れ・上下離れを確認します。



どこでも構造物の各機能について

- A 追尾停止 / 再開
自動追尾を停止、またはプリズムサーチをします。
- B 現況 Surface 管理
現況 Surface から切り出した横断線を表示するために、現況 Surface に関する管理画面を開きます。
- C プリズムセンター
プリズムの位置を画面センターに固定、または解除します。
- D Front / Back 切替
横断形状の表示を起点側から、または終点側からの見た目に反転します。
- E ビュー切り替え
横断ビューと平面ビューを切り替えます。
- F サウンド通知
差のサウンド通知機能を有効、または無効に切り替えます。ロングタップすることでサウンド設定を開きます。
- G 設定
各種設定を行います。

どこでも床堀を使用する

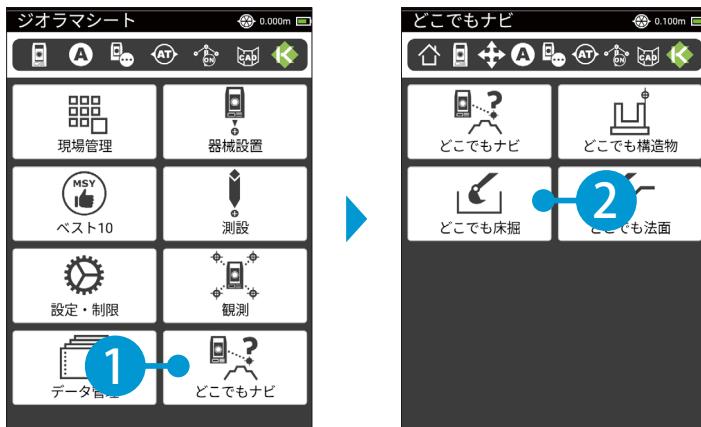
3D 施工データに基づき、重機による床堀の位置と高さの離れをどこでもナビゲーションします。

※この機能は、「自動追尾」で接続した場合のみ使用可能です。

01 プリズム高の入力と作業する構築形状を選択します。

1 [どこでもナビ] → [どこでも床堀] をタップします。

※ Adv 版をお使いの場合は、[スマート施工] → [どこでもナビ] → [どこでも床堀] をタップしてください。



2 プリズム高を入力し、[OK] をタップします。



3 表示したい構築形状と作業する構築形状を選択し、[OK] をタップします。



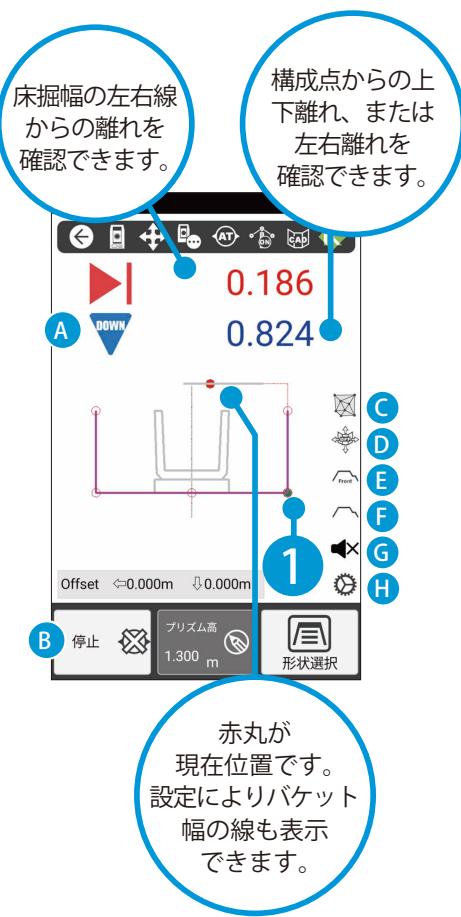
付近機能について

構築形状選択画面にて「付近」ボタンをタップすると、現在プリズムのある測点に存在する構築形状のみ表示します。多くの構築形状を作成した3D施工データを使用する場合、効率良く作業する形状を選択することができます。



02 | 床掘幅の左右離れや構成点からの離れを確認しながら、床掘作業を行います。

- 1 床掘幅の線からの左右離れを確認します。また、作業の基準となる構成点をタップし、点からの離れを確認します。



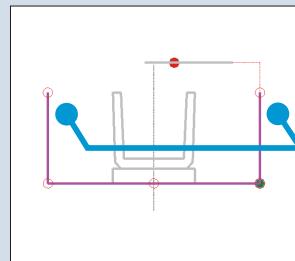
どこでも床掘の各機能について

- A 離れ表示設定
タップすると構成点からの上下離れ、または左右離れのいずれかの表示に切り替えます。
- B 追尾停止 / 再開
自動追尾を停止、またはプリズムサーチをします。
- C 現況 Surface 管理
現況 Surface から切り出した横断線を表示するため、現況 Surface に関する管理画面を開きます。
- D プリズムセンター
プリズムの位置を画面センターに固定、または解除します。
- E Front/Back 切替
横断形状の表示を起点側から、または終点側からの見た目に反転します。
- F ビュー切り替え
横断ビューと平面ビューを切り替えます。
- G サウンド通知
差のサウンド通知機能を有効、または無効に切り替えます。ロングタップすることでサウンド設定を開きます。
- H 設定
各種設定を行います。

作成する床掘形状について

SiTECH 3D 等でどこでも床掘用のデータを作成する際は、必ず床掘の形状のみの構築形状を作成してください。

床掘幅の左右線が形状の両端部になるように作成することで、線からの左右離れを自動計算しています。



床掘幅の左右線が形状の端部になるように作成してください。

バケット線設定について

[設定] → [バケット線設定] より、バケット線の表示設定が可能です。

バケットに取り付けたプリズム位置を設定することで、プリズムだけでなくバケット線を表示できます。

バケット線を表示した場合は、床掘幅の左右離れはバケット線端部からの距離で表示します。



どこでも法面を使用する

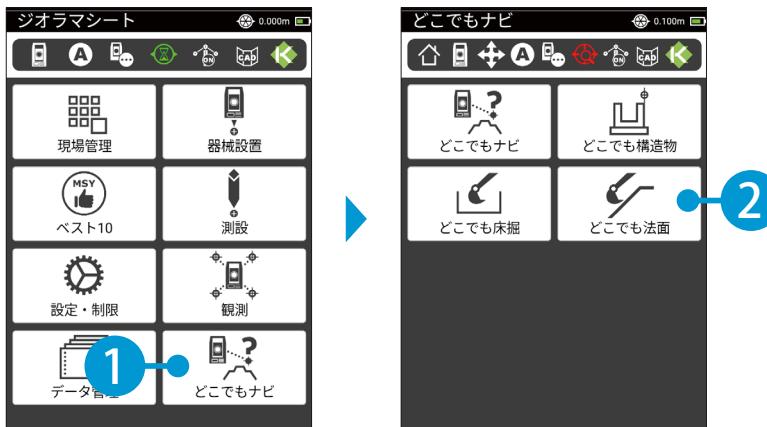
3D 施工データに基づき、観測位置と法面との離れをどこでもナビゲーションします。

※この機能は、「自動追尾」で接続した場合のみ、使用可能です。

01 | プリズム高の入力と、作業する構築形状を選択します。

- 1 [どこでもナビ] → [どこでも法面] をタップします。

※ Adv 版をお使いの場合は、[スマート施工] → [どこでもナビ] → [どこでも法面] をタップしてください。



- 2 プリズム高を入力します。

- 3 表示したい構築形状と作業する構築形状を選択します。



付近機能について

構築形状選択画面にて「付近」ボタンをタップすると、現在プリズムのある測点に存在する構築形状のみ表示します。多くの構築形状を作成した3D施工データを使用する場合、効率良く作業する形状を選択することができます。



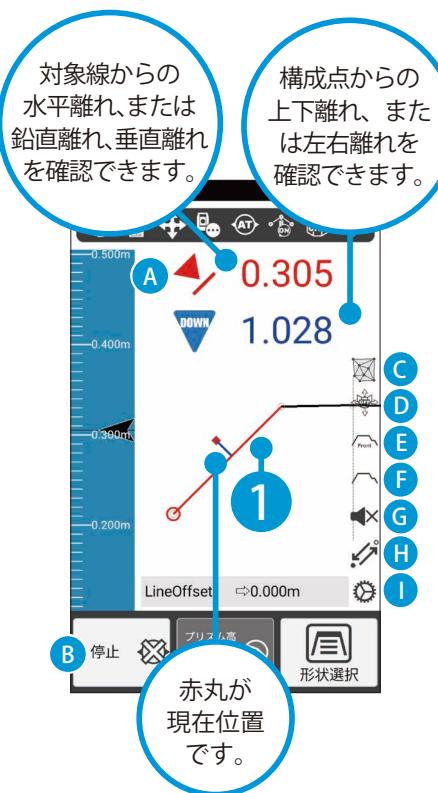
付近機能 OFF
(すべての構築形状を表示)



付近機能 ON
(現在位置の構築形状のみ表示)

02 | 左右離れ・上下離れを確認しながら、法面作業を行います。

1 施工の対象線をタップし、線からの左右離れ・上下離れを確認します。



どこでも法面の各機能について

- A 離れ表示設定
タップすると対象線からの水平離れ、または鉛直離れ、垂直離れのいずれかの表示に切り替えます。
- B 追尾停止 / 再開
自動追尾を停止、またはプリズムサーチをします。
- C 現況 Surface 管理
現況 Surface から切り出した横断線を表示するため、現況 Surface に関する管理画面を開きます。
- D プリズムセンター
プリズムの位置を画面センターに固定、または解除します。
- E Front/Back 切替
横断形状の表示を起点側から、または終点側からの見た目に反転します。
- F ビュー切り替え
横断ビューと平面ビューを切り替えます。
- G サウンド通知
差のサウンド通知機能を有効、または無効に切り替えます。ロングタップすることでサウンド設定を開きます。
- H 対象点切り替え
対象線の両端部のどちらの点からの離れを表示するかを切り替えます。
- I 設定
各種設定を行います。

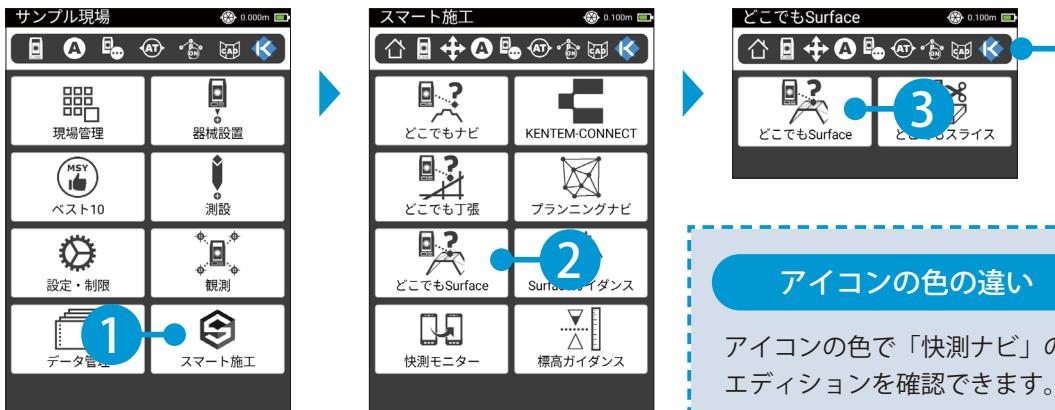
3次元設計データと路線データを活用し、リアルタイムに観測位置と設計面との標高較差、水平較差、垂直較差を確認します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

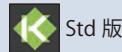
01 | 3D データを選択します。

- [スマート施工] → [どこでも Surface] → [どこでも Surface] をタップします。



アイコンの色の違い

アイコンの色で「快測ナビ」のエディションを確認できます。



- 3D データを選択します。



取り込めるファイルについて

取り込めるファイルは、「SiTECH 3D」等から出力した KSS 形式のファイルです。こちらはオリジナルの TIN データです。

3 選択した3Dデータを確認します。



02 | 観測位置と設計面との標高較差、水平較差、垂直較差を確認します。

※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 観測位置と設計面との標高較差、水平較差、垂直較差が表示されます。

タップして
較差の表示を
切り替えます。

赤い×が
現在位置
です。

A 標高較差
0.459

B Offset 0.000m

C NO.8+7.535
R17.392
H= 184.814

D レイヤー選択

A 差のサウンド通知機能を有効、または無効に切り替え
※ロングタップすることでサウンド設定を開きます。

B データの回転・移動（タップで切替）
Ⓐ 画面を指でなぞると、データが回転します。
Ⓑ 画面を指でなぞると、データが上下左右に移動します。

C 3Dデータの表示状態の切り替え

D 3Dビューア / 横断ビューの切り替え

どこでもスライスを使用する

構造物モデルをスライスし、スライスした断面との差をどこでもガイドします。
スライスは「路線」「構造物のエッジ」「標高」を基準としてスライスができます。

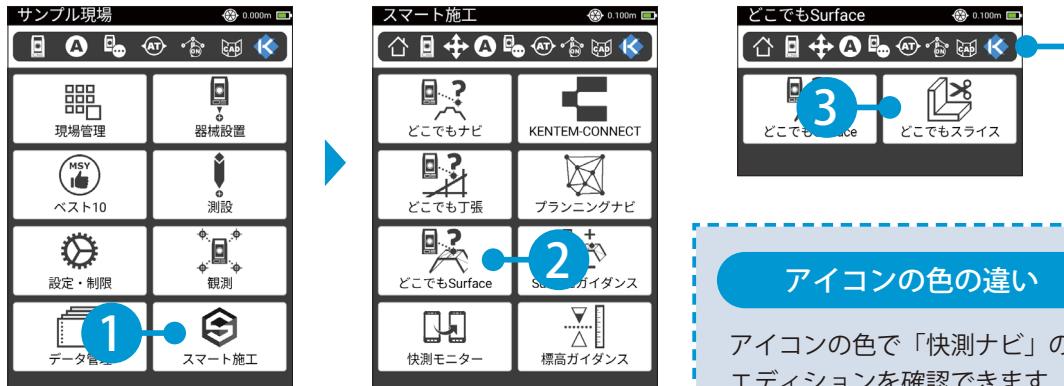
SiTE-STRUCTURE、または SITE-NEXUS から快測ナビ出力した KSSX ファイルや、SiTECH 3D から出力した KSS ファイルが利用できます。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

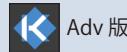
01 | コマンドを起動します。

- [スマート施工] → [どこでも Surface] → [どこでもスライス] をタップします。



アイコンの色の違い

アイコンの色で「快測ナビ」のエディションを確認できます。



02 | データを読み込み、観測する構造物モデルを選択します。

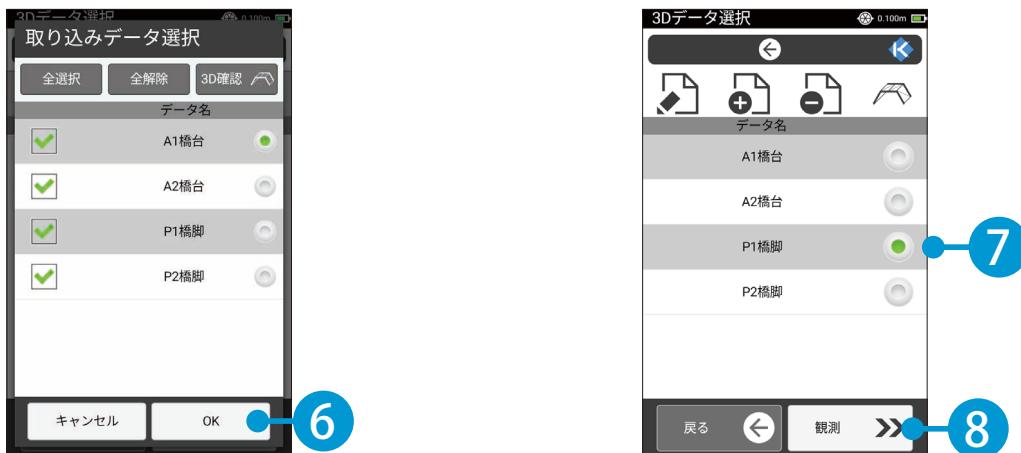
- [データ読み込み] をタップします。



2 取り込むKSSXファイルを選択します。



3 取り込む構造物データを確認します。



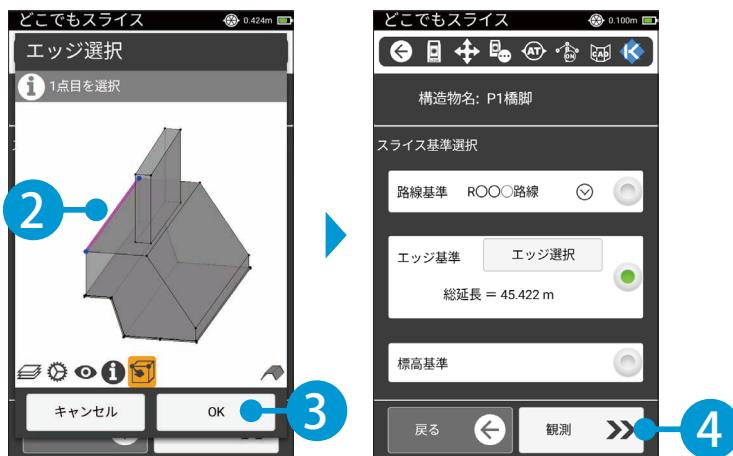
03 スライス基準を選択します。

※ここでは「エッジ基準」の場合で説明します。

1 スライスの基準を選択します。

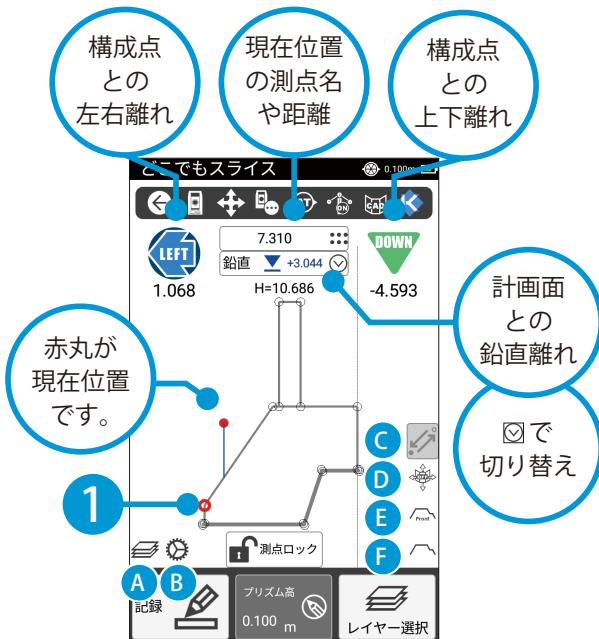


2 3D ビューからスライスの基準にしたいエッジ線を選択します。



04 | 作業したい構成点をタップし、構成点との差のガイドに従って作業を行います。

- 1 スライス基準に対して、現在位置の断面が表示されます。
作業したい構成点をタップし、構成点との左右離れや上下離れを確認します。



どこでもスライスの各機能について

- A レイヤー設定
構造物モデルのレイヤーの表示 / 非表示を設定します。
- B 3D 設定
背景色や3Dに関わる設定を行います。
- C 選択点の切り替え
計画視点と作業視点を切り替えます。
- D プリズムセンター
プリズムの位置を画面センターに固定、または解除します。
- E Front/Back 切替
断面形状の表示を起点側から、または終点側からの見た目に反転します。
- F ビュー切り替え
断面ビューと3Dビューを切り替えます。

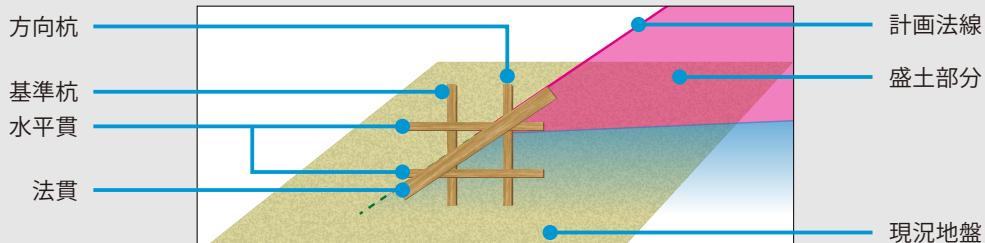
どこでも丁張を使用する

既定断面、任意断面の測点をロックし、水平離れ・観測点法長・鉛直離れ・垂直離れをリアルタイムに確認しながら、丁張を設置します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

ここでは、以下の位置に丁張を設置します。



01 | 測点を確認し、丁張を設置する位置まで移動します。

1 [スマート施工] → [どこでも丁張] をタップします。



アイコンの色の違い

アイコンの色で「快測ナビ」のエディションを確認できます。

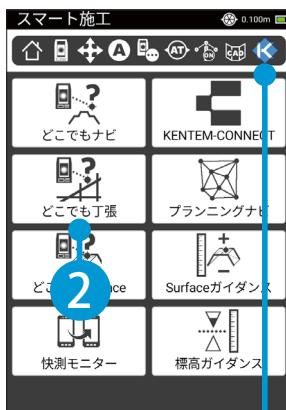


Std 版



Adv 版

2 測点を確認しながら、移動します。

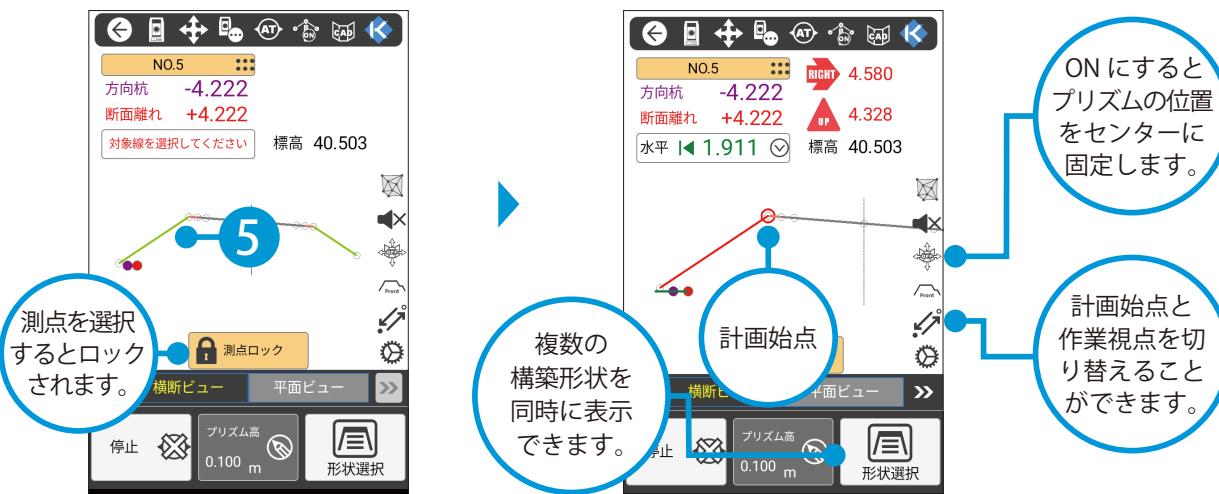


02 | 丁張を設置する測点と対象線を選択します。

1 測点を選択します。ここでは、既定断面の No.5 を選択します。



2 対象線を選択します。



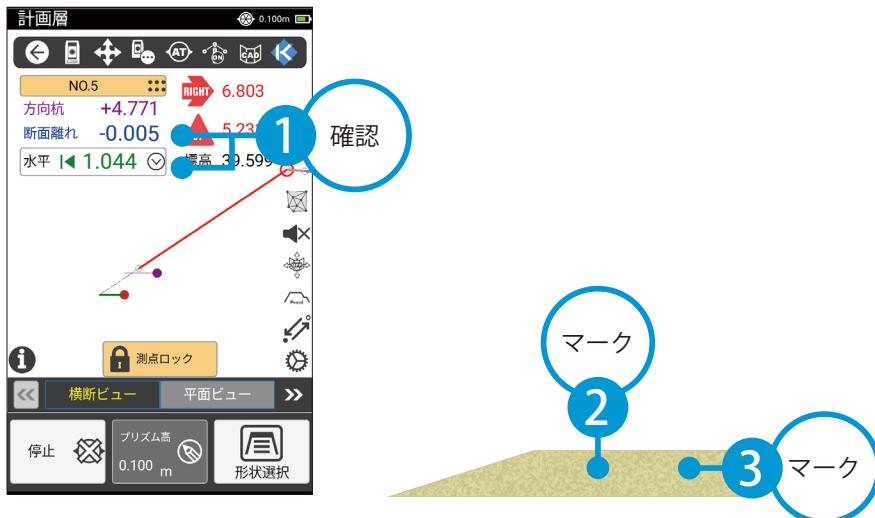
画面上の数値について

現在位置の測点や選択対象線までの水平離れ / 鉛直離れ / 垂直離れ / 観測点法長 / 観測点法長（鉛直）の値がリアルタイムに表示されます。また測点ロック時にはロックした点からの方向杭の距離や断面離れの数値も表示されます。

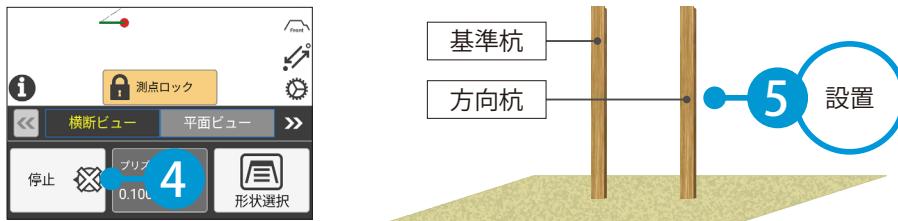
測点名	NO.5	RIGHT 4.580	方向杭
水平離れ / 鉛直離れ / 垂直離れ	-4.222		
観測点法長 / 観測点法長（鉛直）	+4.222	UP 4.328	断面離れ
※ ⌂で切り替え			
	水平 ◀ 1.911 ▶ 標高 40.503		標高

03 | 基準杭と方向杭を設置します。

- 1 断面離れと水平離れの値を確認し、基準杭と方向杭の位置を現況地盤にマークします。

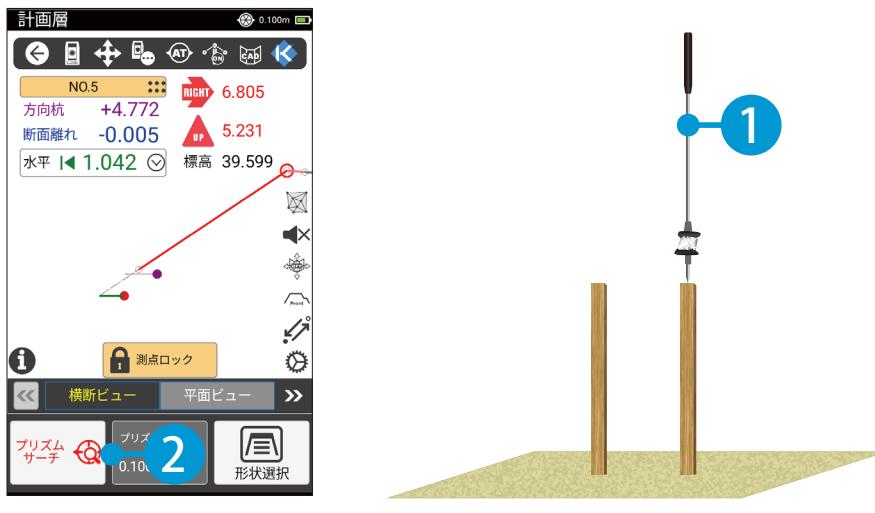


- 2 器械の自動追尾を停止し、基準杭と方向杭を設置します。

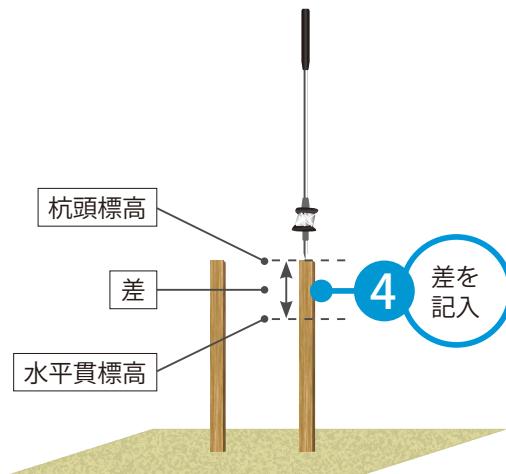


04 | 水平貫を設置します。

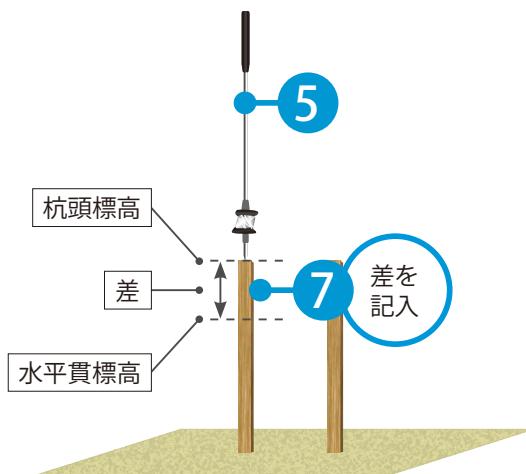
- 1 方向杭の杭頭にプリズムを置き、[プリズムサーチ] をタップして器械の自動追尾を再開します。



2 杭頭の標高を確認し、杭頭標高から水平貫を設置する標高までの差を記入します。



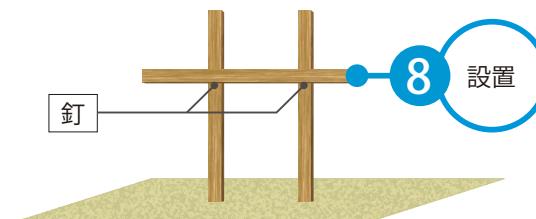
3 同様に、基準杭の杭頭の標高を確認し、杭頭標高から水平貫を設置する標高までの差を記入します。



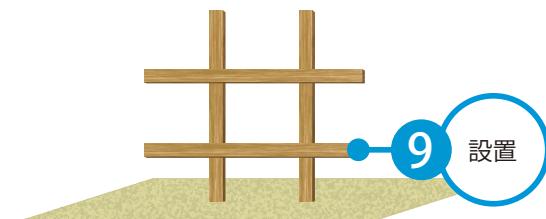
4 [停止] をタップし、器械の自動追尾を停止します。

5 記入した標高差を基に、スケールを使用して水平貫の位置に釘を打ちます。

6 釘に合わせて、水平貫を設置します。



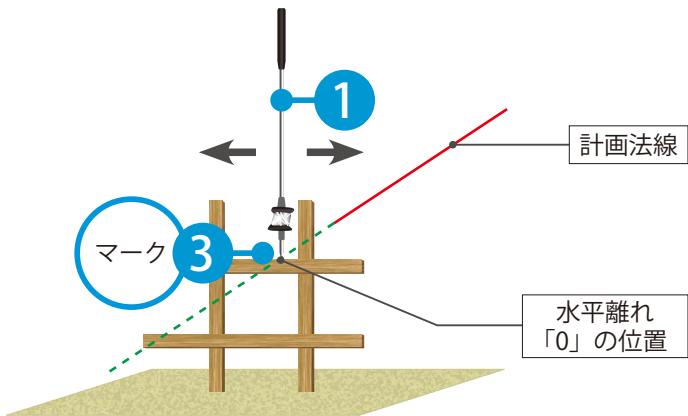
7 続けて、2本目の水平貫を設置します。



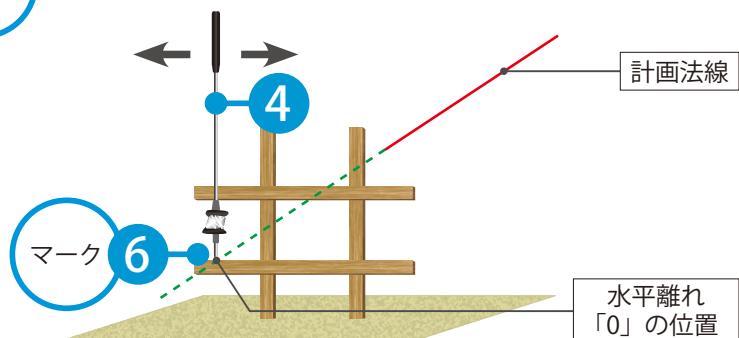
05 | 法貫を設置します。

1 基準杭の杭頭にプリズムを置き、[プリズムサーチ] をタップして器械の自動追尾を再開します。

2 上の水平貫にプリズムを置き、法面までの水平離れが「0」になる位置（計画法線）にマークします。



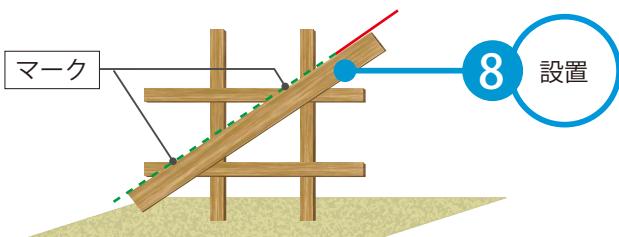
3 同様に、下の水平貫にプリズムを置き、法面までの水平離れが「0」になる位置（計画法線）にマークします。



4 器械の自動追尾を停止します。

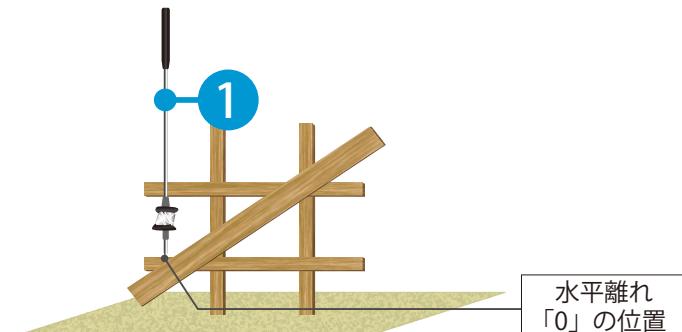


5 マークを基に、法貫を設置します。

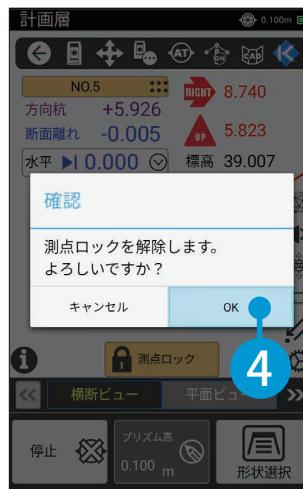


06 | 法貫と水平貫に、丁張を設置した測点の情報を記入します。

- 1 下の水平貫の水平離れが「0」の位置にプリズムを置き、[プリズムサーチ] をタップして器械の自動追尾を再開します。

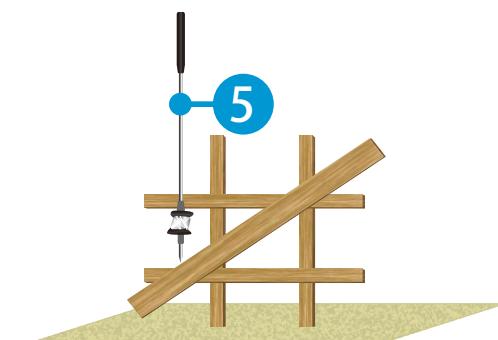


- 2 丁張設置した本来の測点を観測するため、測点ロックを解除します。



アイコンが
変わります。

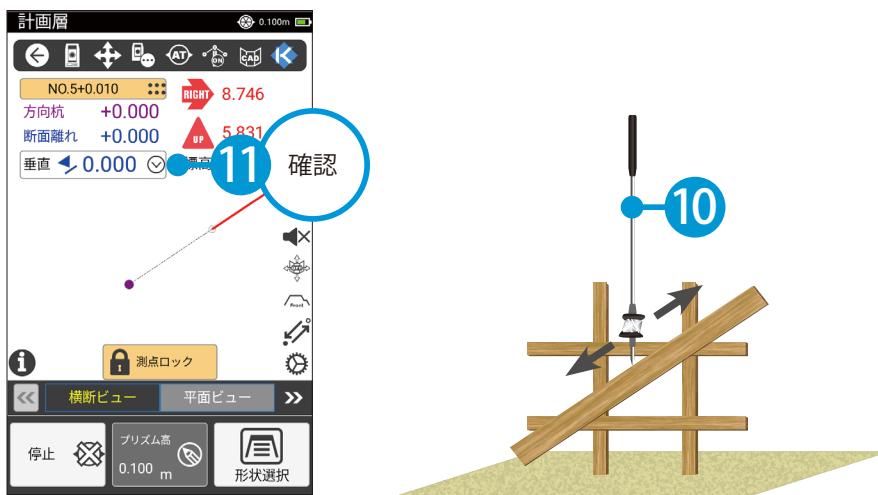
- 3 法貫にプリズムを置き、本来の測点を確認して測点をロックします。



4 垂直離れの値に切り替えます。



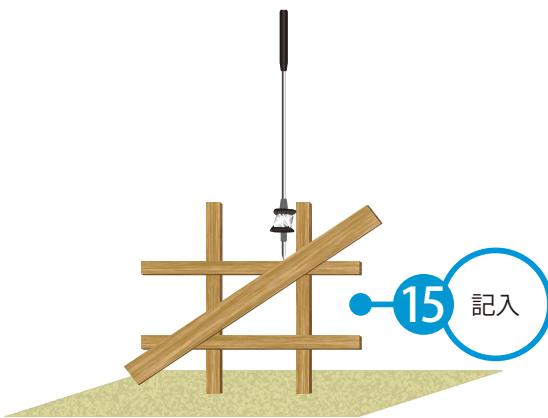
5 プリズムを法貫上で動かし、垂直離れの値が「0」であることを確認します。



6 観測点法長の値に切り替えます。



7 法貫に観測点法長の値を記入し、水平貫に丁張を設置した測点と水平貫の標高を記入します。



丁張データの確認について

①をタップすると、丁張の各種データを確認することができます。

また、[記録] をタップすると、観測データとして記録することができます。



観測値

計画線

快測モニターを使用する

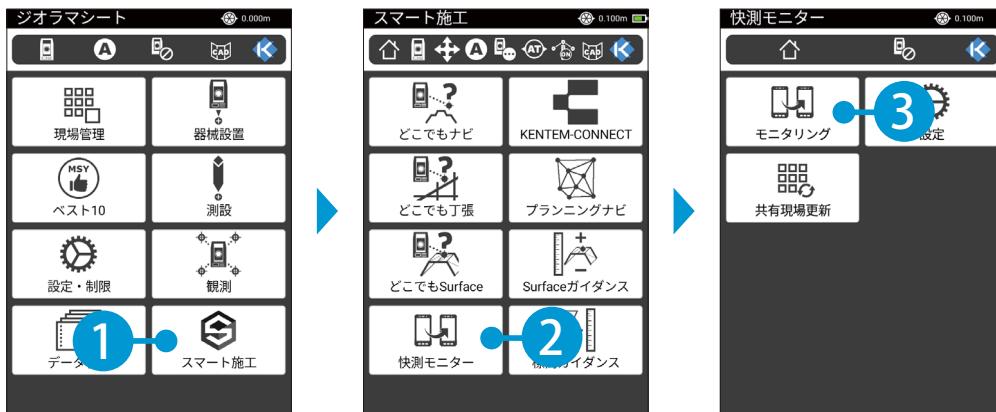
TOPCON 製 LN-150,LN-100（杭ナビ）に接続した快測ナビの測定内容を、別の端末で確認します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | 接続先の快測ナビを選択し、測定内容を確認します。

- 1 [スマート施工] → [快測モニター] → [モニタリング] をタップします。



- 2 接続する Wi-Fi (LN-150) と端末を選択します。



- 3 接続先の快測ナビの測定内容が確認できます。



⚠ ご注意

快測モニターを使用するには、接続先の快測ナビと、確認する快測ナビのバージョンが同じである必要があります。

快測モニター対応機能について

快測モニターは、以下の機能を確認することができます。

メイン端末と同等の画面をモニターできる機能

■ 測設

座標測設 / 路線測設 / ライン測設 / CAD 測設 / 横断測設

■ 観測

TS 出来形計測 / TS 出来形検査

■ スマート施工

どこでもナビ / どこでも丁張 / どこでも構造物 / どこでも床掘 / どこでも法面

観測位置のみモニターできる機能

放射観測 / 横断放射観測（路線） / ライン観測 / どこでも出来形

Surface 出来形（TS ローバー観測・TS ローバー検査） / グリッド観測 / どこでも Surface

現場内基準点観測 / 座標点観測 / Surface ガイダンス / 標高ガイダンス

モニターできない機能

レベル観測 / Surface 出来形（ノンプリスキャン） / Surface エディター / 対辺測定

■ 各画面例



座標測設



TS 出来形計測



どこでもナビ



放射観測

座標点を観測する

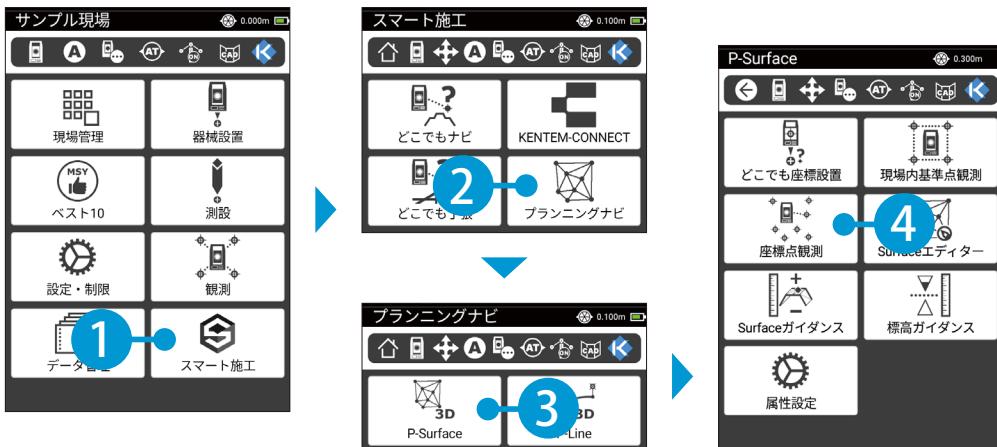
面データをプランニング（簡易設計）するために、構造物や勾配の変化点を観測し、属性ごとに座標値を記録します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | 記録する属性を選択します。

- 1 [スマート施工] → [プランニングナビ] → [P-Surface] → [座標点観測] をタップします。



- 2 観測して記録したい座標の属性を選択します。

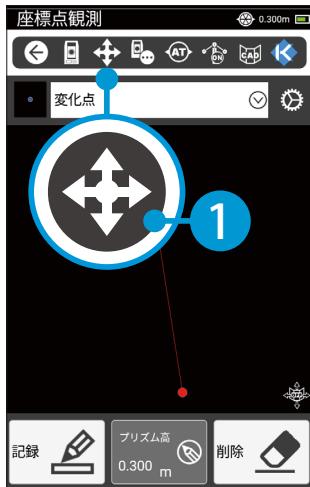


属性設定について

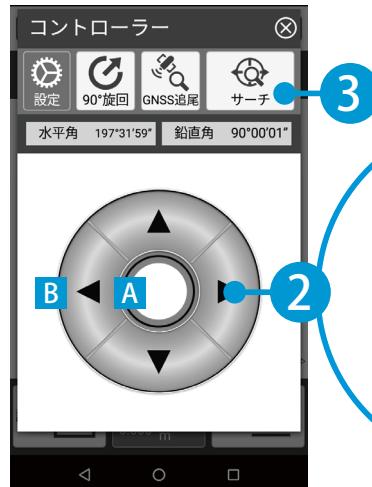
あらかじめ用意された属性だけでなく、「属性設定」にて自由に属性を追加することもできます。

02 | プリズムをロックします。※ここでは「自動追尾」の場合で説明します。

1 コントローラーを起動します。



2 コントローラーで測量機の方向を調整し、ロックします。



※「GNSS 追尾」に関しては、P23 をご参照ください。

自動観測の場合

コントローラーでプリズム方向に向け、「測距」することで自動観測して測定します。

プリズムロック時（追尾中）のアイコン

プリズムロック時は右記のアイコンに変わります。

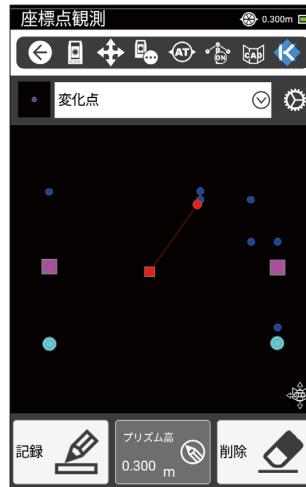


03 | 構造物や勾配の変化点など面データを構成するために必要な座標点を観測します。

1 現在位置が赤い丸で表示されます。観測したい位置に移動し、座標値を記録します。



2 同様に、必要な座標点すべてを記録してください。



Surface(面データ)を作成・編集する

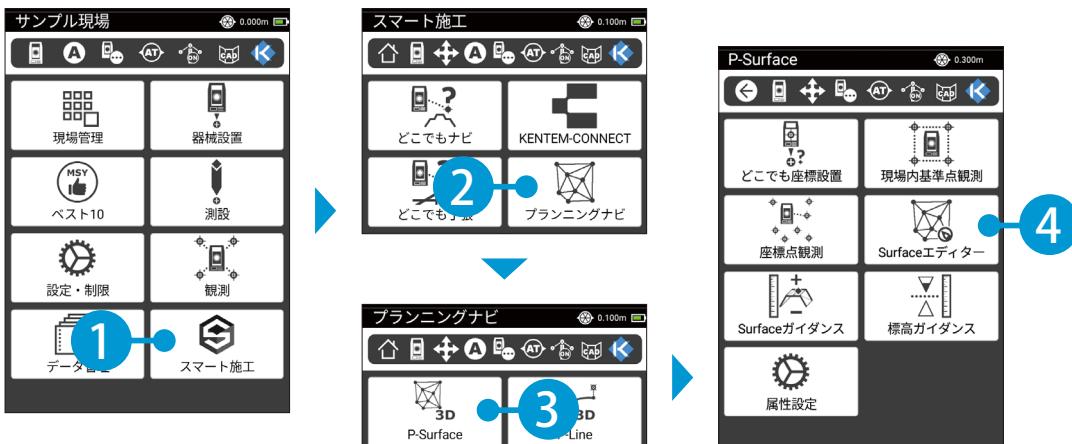
座標点観測で記録した点を用いて、Surface（面データ）を作成します。不要な面の削除・辺の繋ぎ替え・高さのオフセットなどを行い、現場に合わせたプランニング（簡易設計）を行います。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

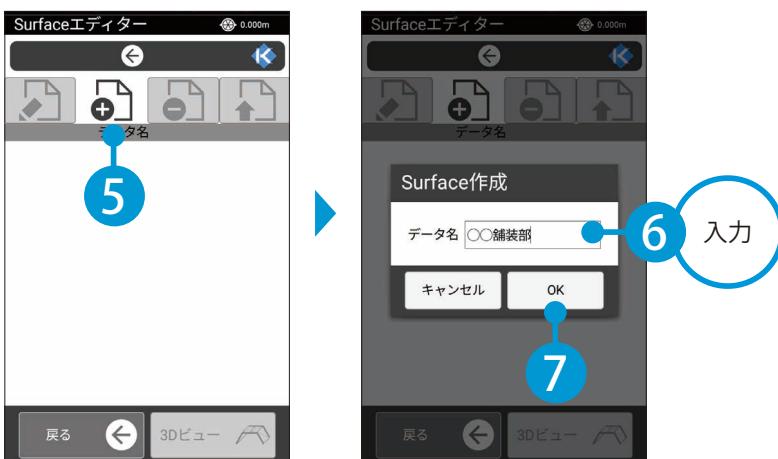
※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | Surface の名前を設定します。

- 1 [スマート施工] → [プランニングナビ] → [P-Surface] → [Surface エディター] をタップします。



- 2 データ名を入力します。

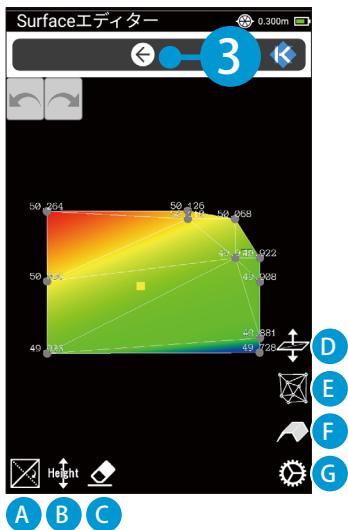


02 | Surface を作成・編集し、現場に合わせたプランニング（簡易設計）を行います。

1 Surface を構成する点として不要な点があれば、タップで○マークを解除し、[作成] をタップします。



2 Surface を編集します。編集が完了したら戻ります。

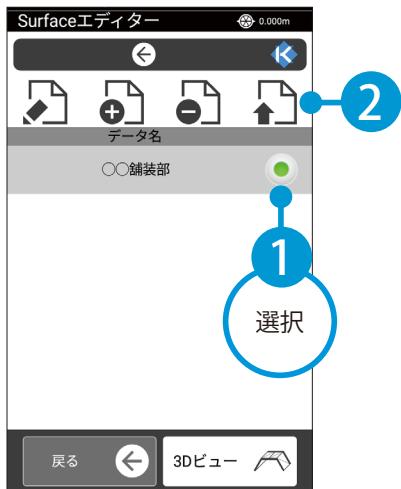


編集の各機能について

- A 辺の繋ぎ替え
Surface の辺の繋ぎを変更します。
- B 高さオフセット
点の高さをオフセットします。
- C 削除
不要な三角面を削除します。
- D Surface オフセット
Surface 全体をオフセットします。
- E 構成要素選択
面を構成する構成要素を選択し直し、Surface を生成し直します。
- F ビュー切り替え
3D ビューと 2D ビューを切り替えます。
- G 設定
各種設定を行います。

03 | ガイダンス用に Surface データを出力します。

1 出力したいデータを選択します。



2 [ガイダンスデータ出力] をタップします。



3 ガイダンスデータのデータ名を入力します。



データの出力先について

[LandXML (面データ) 出力] をタップすると、データの出力先を選択できます。

KS データバンクへ出力

KS データバンクの快測ナビフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

ダウンロードフォルダー

モバイル端末内のダウンロードフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

外部アプリへ出力

各外部アプリにデータを出力する場合に選択します。

Surface ガイダンスを使用する

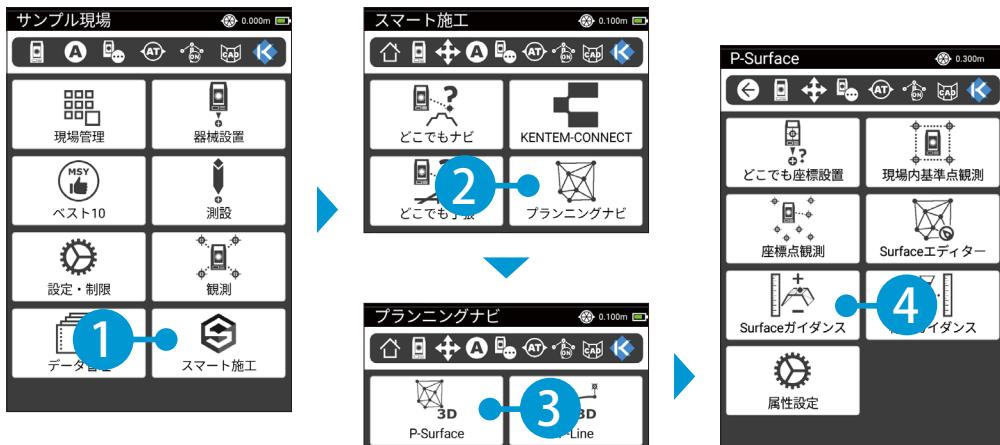
プランニングした Surface データとの較差を確認しながら、ガイダンス施工・検測などを行います。Surface ガイダンスではリアルタイムな較差の数値確認に加え、3D ビュー、横断ビュー、レベルゲージなどわかりやすい表示で施工を支援します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

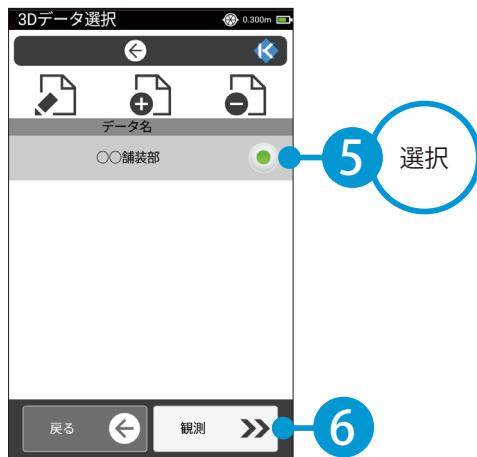
※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | 使用する Surface データを選択します。

- 1 [スマート施工] → [プランニングナビ] → [P-Surface] → [Surface ガイダンス] をタップします。

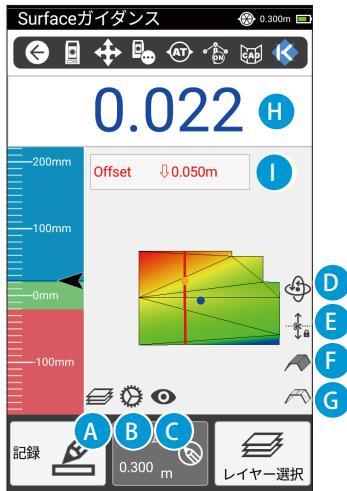


- 2 使用するデータを選択します。



02 | 標高較差の数値を確認しながらガイダンス施工を行います。

- 1 観測位置の面データとの標高較差が表示されます。



Surface ガイダンスの各機能について

- A レイヤー設定
レイヤーの表示 / 非表示を切り替えます。
- B 設定
各種設定を行います。
- C 視点切り替え
3D ビューの表示視点を切り替えます。
- D 回転・移動
3D ビューの回転モードと移動モードを切り替えます。
- E 断面方向
面データを横断ビューに切り出す断面方向のロック / 解除を行います。
- F 3D 表示設定
3D ビューの色に関する表示設定を行います。
- G ビューカット
3D ビューと横断ビューを切り替えます。
- H 音声読み上げ
数値部分をタップすると、音声で数値を読み上げます。
- I Surface オフセット
Surface 全体をオフセットします。

標高ガイダンスを使用する

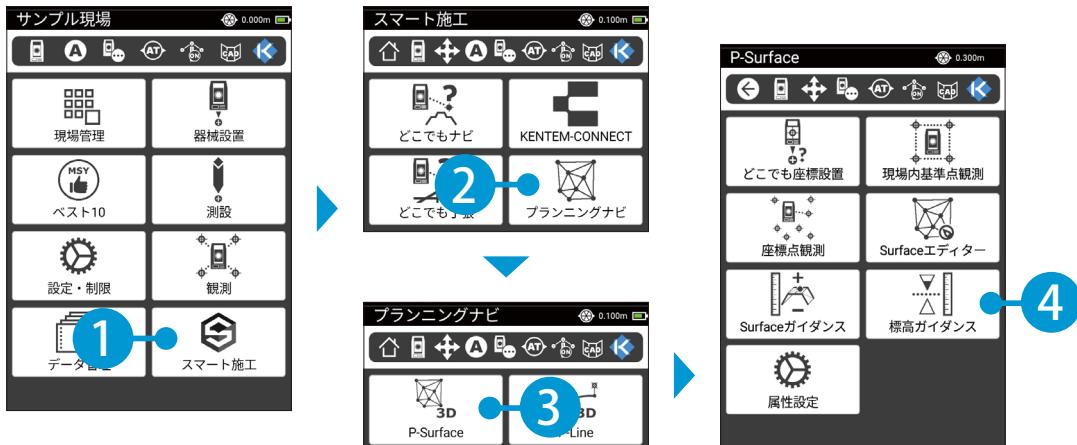
プランニングした Surface データとの較差を確認しながら、ガイダンス施工・検測などを行います。標高ガイダンスではリアルタイムな較差の数値確認に加え、レベルゲージや上下マークなど大きくて視認性の高いシンプルな表示でガイダンスを支援します。

快測ナビ（Adv 版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

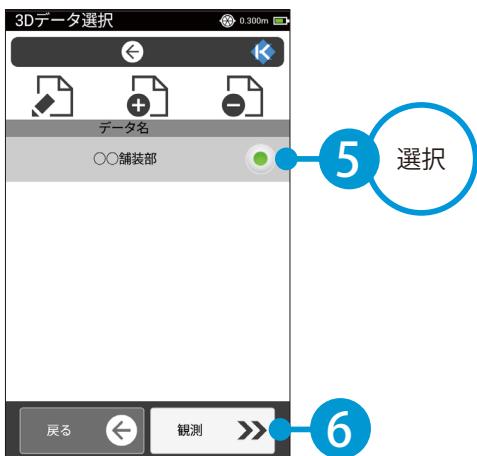
※「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードに関しては、P114 をご参照ください。

01 | 使用する Surface データを選択します。

- 1 [スマート施工] → [プランニングナビ] → [P-Surface] → [標高ガイダンス] をタップします。



- 2 使用するデータを選択します。



02 | 標高較差の数値を確認しながらガイダンス施工を行います。

- 1 観測位置の面データとの標高較差が表示されます。



標高ガイダンスの各機能について

- A ビュー切り替え
レベルビューと平面ビューを切り替えます。
- B 音声読み上げ
数値部分をタップすると、音声で数値を読み上げます。
- C Surface オフセット
Surface 全体をオフセットします。

Lesson 36

Line(基準線データ)を作成・編集する

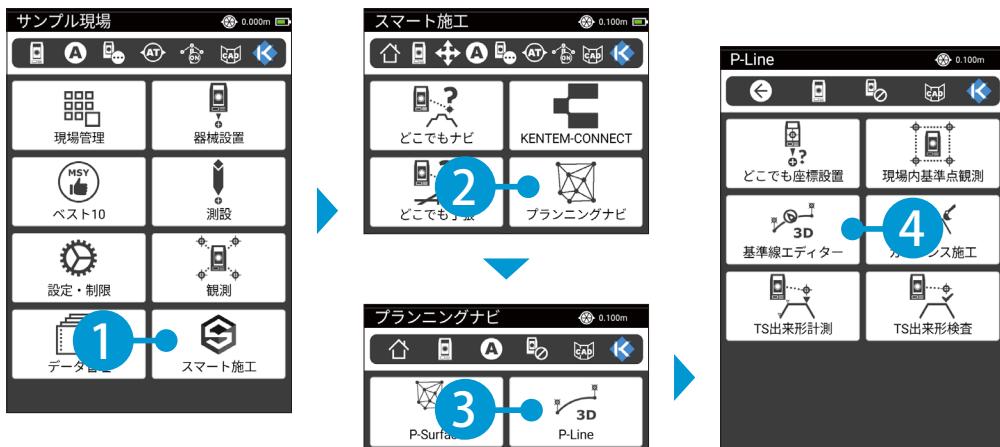
登録された座標値や観測した座標値を用いて基準線を作成します。
基準線に対して横断の構築形状を作成することで、現場で3D施工データをプランニング（簡易設計）できます。

快測ナビ（Adv版）をお持ちの場合にご利用できる機能です。

※「Std版」から「Adv版」へのアップグレードに関しては、P114をご参照ください。

01 | コマンドを起動します。

- [スマート施工] → [プランニングナビ] → [P-Line] → [基準線エディター] をタップします。



02 | 基本情報および起終点を設定します。

- 基準線名を入力します。



2 測点名形式、測点間隔、作成したい構築形状を選択します。



構築形状について

「床掘」「床掘 + 構造物」「法面→小段」「小段→法面」「敷均し」の構築形状を作成することができます。



3 起点、終点を選択します。



起点・終点の選択について

[LIST] または [MAP] から選択します。
詳しくは、以下のページをご参照ください。



P110：点を選択する

観測点座標の登録について

起点または終点を現場で観測して「測距」することで、座標を登録することができます。



4 勾配を指定します。



勾配指定について

起終点勾配指定

選択した座標に標高が登録されている場合は、自動で表示されます。

起点勾配指定

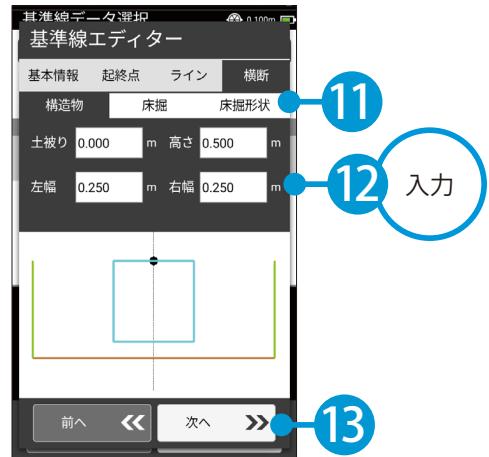
起点からの勾配を入力することができます。

5 ラインの種類を選択します。



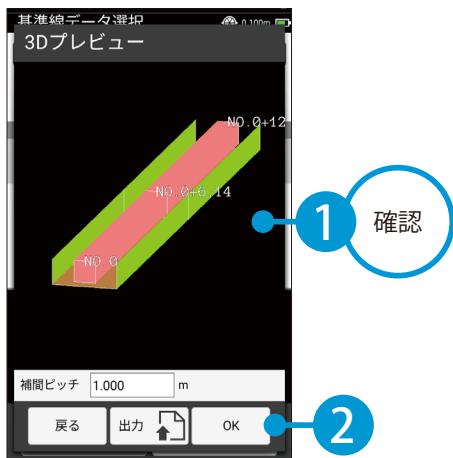
曲線の場合は、
「曲線の方向」と
「半径(R)」を
入力します。

6 横断の各タブをタップし、情報を入力します。



03 | 形状を確認します。

1 3D ビューにて、作成した形状を確認します。



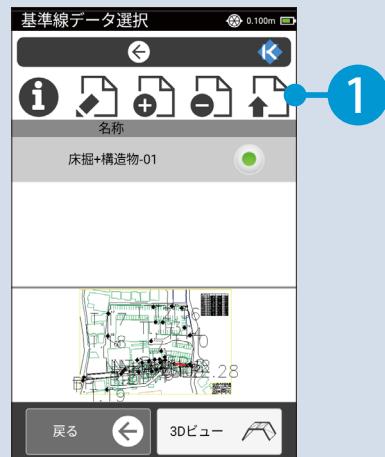
04 | 作成した基準線データを使用しながらガイダンス施工や観測を行います。

基準線データについて

作成した基準線データは、路線データとして路線選択から選択できます。路線データを使用する全ての機能で使用できます。

データの出力について

作成したデータを出力したい場合は、[データ出力] をタップします。

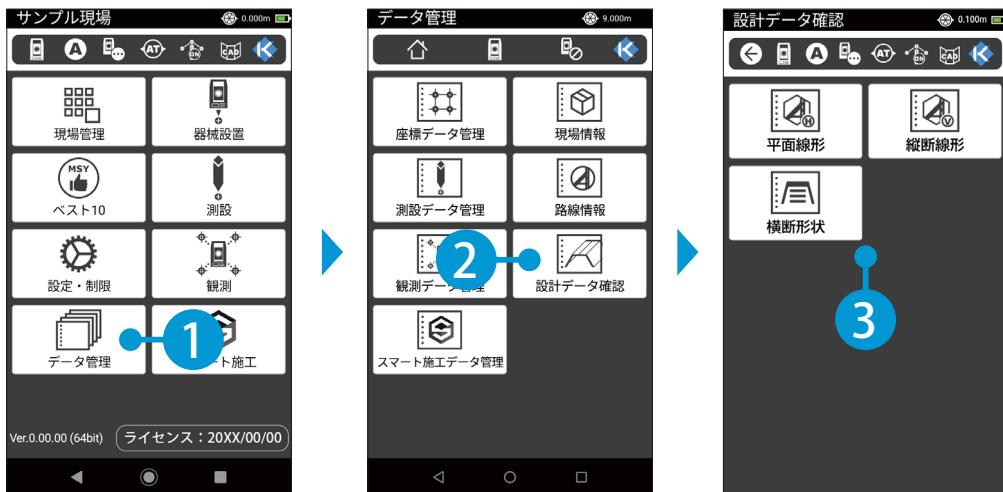


設計データを確認する

選択している路線の平面線形・縦断線形・横断形状を確認します。

01 | 設計データを確認します。

- 1 [データ管理] → [設計データ確認] をタップし、[平面線形] [縦断線形] [横断形状] のいずれかをタップします。



- 2 設計データを確認します。
タブをタップすると、情報が切り替わります。

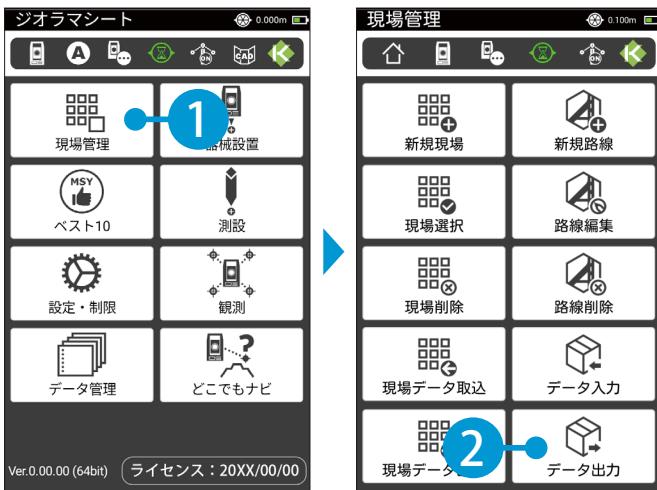
平面線形	縦断線形	横断形状

記録したデータを出力する

記録した座標値、観測した現況横断データ、計測した TS 出来形データを、CSV や SIMA、XML で出力します。

01 | 出力するデータを選択し、出力方法・出力先を設定します。

- 1 [現場管理] → [データ出力] をタップします。



- 2 出力データの内容を選択し、保存ファイル名を入力します。

分類	測設
機能	座標測設
形式	座標データCSV
データの順序	点名、X、Y、Z
出力先	KSデータバンク
保存ファイル名	座標測設_20XXXXXX.CSV
キャンセル	
OK	

※出力データの種類によってデータの順序、出力先などを設定します。

データの出力先について

KS データバンク

KS データバンクの快測ナビフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

ダウンロードフォルダー

モバイル端末内のダウンロードフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

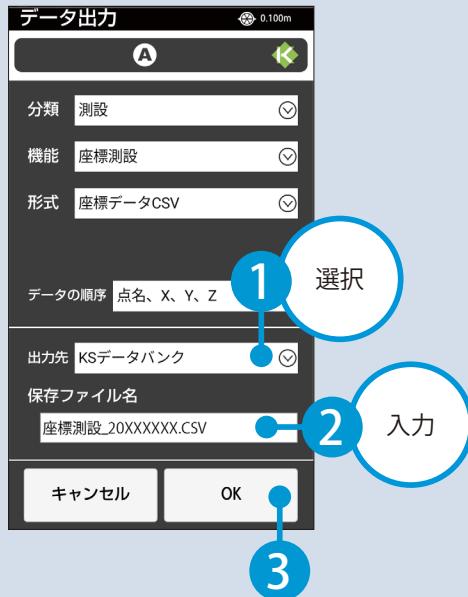
外部アプリ

各外部アプリにデータを出力する場合に選択します。

KS データバンクにデータを出力する手順について

KS データバンクにデータを出力する場合は、クラウドサービス管理画面にログインし、クラウド工事を選択してファイルを出力してください。

- 1 データ出力画面にて、出力先で「KS データバンク」を選択します。



- 2 クラウドサービス管理画面にログインします。ログイン方法につきましては、「P05 認証確認を行います」をご確認ください。

- 3 出力先のクラウド工事、およびフォルダーを選択してください。



⚠ ご注意

使用する端末の OS が Android 11 以上の場合、内部ストレージにアクセスできません。KS データバンク、または外部アプリから出力を行ってください。

現場データを出力する

快測ナビの現場データをオリジナル形式で出力します。データのバックアップや他の快測ナビにデータを渡す場合に活用できます。

01 現場データを出力します。

1 [現場管理] → [現場データ出力] をタップします。



2 出力する現場名を選択します。



3 出力するオリジナルデータのファイル名を入力し、出力先をタップします。



出力先を
選択

データの出力先について

KS データバンクへ出力

KS データバンクの快測ナビフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

ダウンロードフォルダー

モバイル端末内のダウンロードフォルダーにデータを出力する場合に選択します。

外部アプリへ出力

各外部アプリにデータを出力する場合に選択します。

点を選択する

測点を選択する場合は、リストまたは、マップ上から選択します。

LIST から選択する場合

01 | LIST から点を選択します。

- 1 [LIST] をタップし、点を選択します。



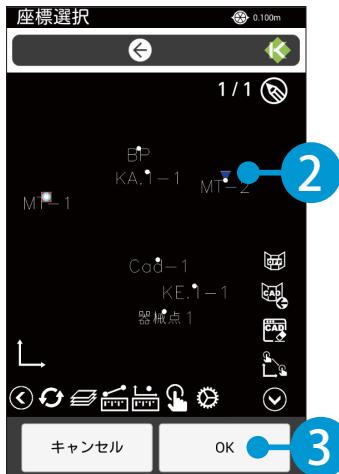
Rマークについて

測設時に記録済みの点には、Rマークが表示されます。

MAP から選択する場合

01 | MAP から点を選択します。

- 1 [MAP] をタップし、点を選択します。



マップの背景に CAD 図面を配置する場合

詳しくは、以下のページをご参照ください。

P111：マップの背景に CAD 図面を配置する

マップの背景にCAD図面を配置する

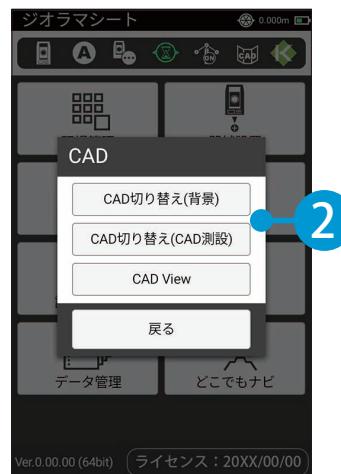
共通のマップの背景や、CAD測設の背景にCAD図面を配置します。

01 | マップに配置する CAD 図面を選択します。

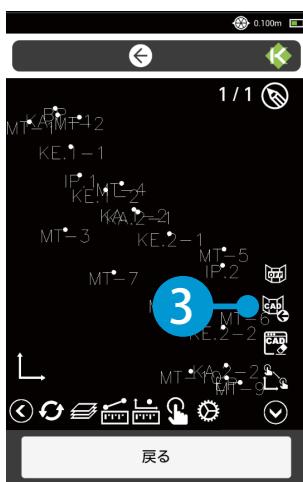
- 1 ホーム画面のツールバーにある [CAD] をタップします。



- 2 [CAD 切り替え(背景)] または [CAD 切り替え(CAD測設)] をタップします。



- 3 配置する CAD 図面データを選択します。



ツールバーの位置を切り替える

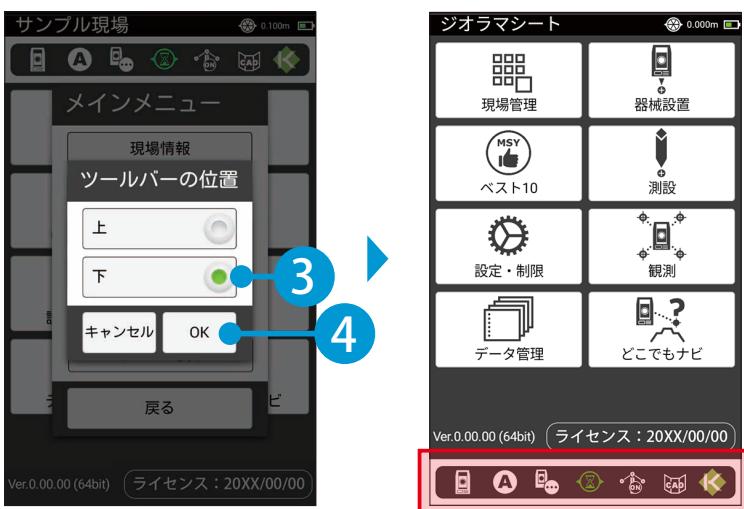
ツールバーの配置位置を画面の上部または、下部に切り替えます。

01 | メインメニューから、ツールバーの位置を切り替えます。

- 1 [メインメニュー] → [ツールバーの位置] をタップします。



- 2 ツールバーの位置を [上] または [下] から選択し、[OK] をタップすると位置が切りわります。



コントローラーの表示位置を変更する

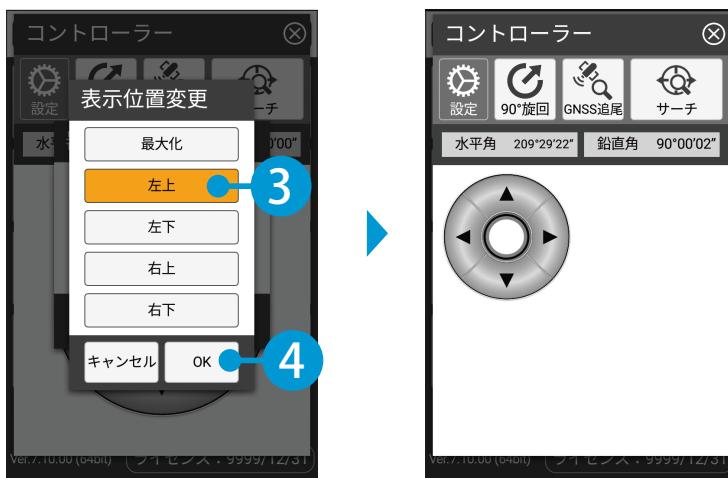
コントローラーの表示位置を変更します。

01 | 器械設定画面で、コントローラーの表示位置を変更します。

- 1 コントローラー画面の [設定] → [コントローラ位置] をタップします。



- 2 表示位置を選択し、[OK] をタップすると表示位置が変更されます。



快測ナビの利用期間更新について

快測ナビの利用期間更新をお申し込みいただき、弊社の更新処理が完了後に、快測ナビで以下の操作を行ってください。

⚠ ご注意

快測ナビの利用期間更新は、事前に利用期間更新のお申し込みが必要です。

また、「Std 版」から「Adv 版」へのアップグレードする場合も事前に「Adv 版」をご購入いただく必要があります。

利用期間更新のお申し込み / 「Adv 版」の購入

「快測ナビ」をご導入された販売代理店様、または弊社担当営業までご連絡ください。

※上記の連絡先がご不明な場合は、以下へお電話ください。

株式会社建設システム

0570-200-787

受付時間

[平日] 9:00 - 12:00 / 13:00 - 17:00

※音声ガイダンスが流れますので、案内に従って「*」「1」を押してください。

1 サーバーに接続します。



残り 30 日
を切ると、
赤字で表示
されます。



2 使用者名・メールアドレスを確認し、[OK] をタップしてください。



使用者名およびメールアドレスが未入力の画面が表示された場合

クラウドサービス管理画面にて、ログインする必要があります。



「Std 版」から「Adv 版」へアップグレードしたい場合

「Std 版」から「Adv 版」へのアップロードする場合も、同様の手順でアップグレードすることができます。

※アップグレードには、事前に「Adv 版」のご購入が必要です。

ご注意

- (1) 本書の内容およびプログラムの一部、または全部を当社に無断で転載、複製することは禁止されております。
- (2) 本書およびプログラムに関して将来予告なしに変更することがあります。
- (3) プログラムの機能向上、または本書の作成環境によって、本書の内容と実際の画面・操作が異なってしまう可能性があります。この場合には、実際の画面・操作を優先させていただきます。
- (4) 本書の内容について万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点・誤り・記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (5) 本書の印刷例および画面上の会社名・数値などは、実在のものとは一切関係ございません。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Excel、Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Adobe、Acrobat は Adobe KK（アドビ株式会社）の商標です。

Android™、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。

その他の社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

② ソフトの操作に困ったら「サポートページ」をご活用ください！

機能・操作に関するサポートコンテンツを多数ご用意しております。

よくあるご質問(FAQ)、PDFマニュアルなどをご確認いただけます。

業務効率化や不明点の確認・学習にお役立てください。



お知らせ



FAQ



マニュアル



サポート

など

The screenshot shows the KENTEM support page with a yellow header bar. Below it, there's a section titled 'おすすめのサポート' (Recommended Support) featuring six cards: 'よくあるご質問 (FAQ)' (FAQ), 'マニュアルダウンロード' (Manual Download), 'クラウド/WEB版' (Cloud/Web Version), '資料ダウンロード' (Document Download), and 'チャットサポート' (Chat Support). Each card has a small icon and a brief description.

KENTEM サポート



株式会社 建設システム 〒417-0862 静岡県富士市石坂 312-1 TEL 0570-200-787
2025年10月27日発行

このマニュアルは、快測ナビ Ver.【Std 版 / Adv 版】7.15.00 の画面で作成しています。

だれでもできる 快測ナビ

基本操作マニュアル